

富田林市埋蔵文化財調査報告16

喜志遺跡発掘調査概要Ⅱ

1988.3

富田林市教育委員会

は　じ　め　に

大阪府の南東部に位置し、南河内地方の中心として発展してきた富田林市は、石川の川流域にあたり、120ヶ所をこえる遺跡が確認されております。

本書は、弥生時代中期の集落跡として周知されている齊志遺跡の調査成果を報告するものです。

調査の結果、溝を中心とする遺構が検出され、サヌカイト製石器の大製品や石核・剝片といった石器生産を裏づける多量の遺物も出土しており、弥生集落の南東部の様相を明らかにさせる貴重な手がかりを得ることができました。

最後に、この調査にあたり参加、ご協力を賜わりました方々に厚く感謝申し上げます。

昭和63年3月

富田林市教育委員会
教育長 西尾典次

例　　言

1. 本書は、富田林市教育委員会が昭和62年度に国庫および府費の補助を受け、実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、富田林市教育委員会社会教育課、中辻亘、鈴木紀子を担当者として、昭和62年8月4日に着手し、昭和63年3月31日に終了した。
3. 調査を実施するにあたり、大阪府教育委員会文化財保護課・北野耕平氏（富田林市文化財調査会委員・神戸商船大学教授）、菅栄太郎氏（武庫川女子大学）、信賀寧（大阪府立登美丘高校）および栗田薰女史から格別の助言や援助を受けた。ここに記して感謝の意を表します。
4. 本書の執筆は、各々文末に記すものがあたった。
5. 本書の編集は中辻と鈴木が中心に行った。また、製図については鈴木が行った。

発掘調査参加者

〈調査補助員〉　浅野雅子・石上達也・池田美子・岩子真知・岸本佐智子・
北国友一・倉田貞由美・鈴木昭宏・田川友美・角田孝雅・
中川美智代・袴矢美紀・三浦洋一

〈作　業　員〉　石田京一・岩子苑子・奥野久雄・阪本房治・前野美智子・
吉田光夫

本文目次

	頁
I 昭和62年度調査の概要	1
II 調査に至る経過	3
III 位置と環境	3
IV 遺構	6
V 出土遺物	16
VI まとめ	38

表目次

表1 発掘調査一覧表	1・2
表2 土壤一覧表	8
表3 ピット一覧表	8~10
表4 各遺構出土遺物一覧表	18
表5 石器法量表	29
表6 石核・剥片出土重量一覧表	30

挿図目次

挿図1 周辺遺跡分布図	4
挿図2 調査地位置図	5
挿図3 溝2(第4トレシ)弥生土器出土状況平面図・断面図	7
挿図4 土壌1・4・5・10平面図・断面図	11・12
挿図5 土壌6平面図・断面図	13・14
挿図6 土壌9平面図・断面図	15
挿図7 溝2出土土器	17
挿図8 溝2出土土器	19
挿図9 溝2出土土器	21
挿図10 溝2出土土器	23
挿図11 溝2出土土器	24
挿図12 土壌1・14、ピット123、包含層出土土器	25
挿図13 溝2、ピット51出土土製品	27
挿図14 石器(1)	31
挿図15 石器(2)・木製品	32
挿図16 石剣・石槍・木製品	33
挿図17 石庖丁	34
挿図18 石斧・削器・紡錘車・砥石	35
挿図19 叩き石	36
挿図20 石核	37
挿図21 高志遺跡調査地位置図	39

図 版 目 次

- 図版1 喜志遺跡周辺航空写真
図版2 調査地全景航空写真
図版3 (上) 調査地全景(調査前) 北西から
 (下) 調査地全景(調査後) 東から
図版4 (上) 第1トレンチ全景 西から
 (下) 第2トレンチ全景 西から
図版5 (上) 第3トレンチ全景 四から
 (下) 第4トレンチ全景 西から
図版6 (上) 溝1(第1トレンチ) 南東から
 (下) 溝2(第3トレンチ) 北西から
図版7 (上) 溝2(第2トレンチ) 弥生土器出土状況 北から
 (下) 溝2(第3トレンチ) サヌカイト出土状況 南東から
図版8 (上) 溝2(第4トレンチ) 弥生土器出土状況 北から
 (下) 溝2(第4トレンチ) 弥生土器出土状況 南から
図版9 (上) 溝2(第4トレンチ) 弥生土器出土状況 南から
 (下) 溝2(第4トレンチ) 石庖丁出土状況 南から
図版10 (上) 土壙1(第1トレンチ) 遺物出土状況 北から
 (下) 土壙4(第1トレンチ) 全景 南から
図版11 (上) 土壙5(第1トレンチ) 全景 南から
 (下) 土壙6(第1トレンチ) 全景 南東から
図版12 (上) 土壙9(第1トレンチ) 全景 北から
 (下) 土壙10(第2トレンチ) 全景 南から
図版13 溝2出土土器
図版14 溝2出土土器
図版15 土壙1・14、ピット51出土土器・未製品
図版16 石鏃
図版17 石鏃・未製品
図版18 石劍・石槍・未製品
図版19 石錐・石小刃・削器
図版20 (上) 石庖丁・小型扁平片刀石斧・削器・紡錘車・未製品
 (下) 砕石・叩き石
図版21 サヌカイト石核・剝片

I 昭和62年度調査の概要

No.	調査期間	遺跡名	位 置	申 請 者	面 積 (m ²)	用 途	備 考
1	62. 4. 1	中野北遺跡	中野町3丁目 848	竹嶋 史裕	289	個人住宅	基礎工事立会。地山面でピット検出。 地山面上で基礎工事指導。
2	62. 4. 6	寺内町遺跡	富田林町 45-4	神谷 光雄	77	個人住宅	基礎工事立会。遺構、遺物なし。
3	62. 4. 6	錦織遺跡	錦織942-14	塙野 忠	801	個人住宅	1×2mのトレンチを機械掘削。 遺構、遺物なし。
4	62. 4. 17	甲田遺跡	甲田1-30	萩谷 順次	99	個人住宅	基礎工事立会。遺構、遺物なし。
5	62. 4. 17	甲田遺跡	甲田228	中野 幸夫	273	個人住宅	1×5mのトレンチを機械掘削。遺構、 遺物なし。
6	62. 4. 24	高志西遺跡	高志町3丁目 975-2 -3,1164	村本 定雄	779	個人住宅	1×10mのトレンチを機械掘削。地山面で ピット検出。地山面上で基礎工事指導。
7	62. 4. 28	錦織南遺跡	錦織896	福井 利一	447	個人住宅	1×1.5mのトレンチを機械掘削。遺構、 遺物なし。
8	62. 5. 6	錦織南遺跡	錦織893	田中 貢軒	752	個人住宅	1×2mのトレンチを機械掘削。遺構、 遺物なし。
9	62. 5. 7	寺内町遺跡	富田林町 62-1	黒田 栄子 黒田 咲子	302	個人住宅	1×2mのトレンチを2ヶ所入力掘削。 地山面上で基礎工事指導。
10	62. 5. 9	高志西遺跡	川ヶ丘町 1228-2	友納喜久司	244	個人住宅	基礎工事立会。地山面で溝状遺構検出。 地山面上で基礎工事指導。
11	62. 5. 9	電泉東遺跡	電泉488-5	野野 住枝 北野 品彦	270	個人住宅	1×3mのトレンチを機械掘削。地山面で 溝状遺構を検出。地山面上で基礎工事指導。
12	62. 5. 19	甲田遺跡	甲田1153-4	半間 伸行	164	個人住宅	基礎工事立会。遺構、遺物なし。
13	62. 6. 16	西板持遺跡	西板持624 1 643-2,651-3	片岡 政男	512	個人住宅	基礎工事立会。遺構、遺物なし。
14	62. 7. 7	中野遺跡	若松町西2丁 目1726	曲田 定雄	297	個人住宅	1×5mと1×2mのトレンチを機械掘削。 地山面で溝検出。地山面上で基礎工事指導。

表 I 発掘調査一覧表

No.	調査期間	遺跡名	位 置	申 済 者	規 模 (m ²)	用 施	備 考
15	62.8.4 ～8.8	寺内町遺跡	富田林町 62-15	大野 隆志	124	個人住宅	旧杉山家住宅古洞に基づく建物基礎配列部 約32m ² を機械掘削および人力剥削により 調査。古文3年(1850年)古洞による建物 の基礎破壊を検出する。
16	62.8.18	中野北遺跡	中野町3丁目 131-18	松本 元晴	534	個人住宅	基礎工事立会。盛土内に基礎。
17	62.9.17 ～12.29	吉志遺跡	木戸山町 579-1	飼田 久道	814	共同住宅	本書掲載
18	12.9.8 ～12.29	吉志遺跡	木戸山町 579-3	村本 勇	814	共同住宅	本書掲載
19	62.9.24	中野北遺跡	中野町3丁目 864	北辻 長次	544	個人住宅	1×1mのトレンチを4ヶ所機械掘削。 地山面でピットを検出。地山面上で基礎工事指導。
20	62.10.8	鍋嶺南遺跡	鍋嶺 894	小谷 平史	470	個人住宅	1×2mのトレンチを機械掘削。 地山面で溝状遺構を検出。地山面上で基礎工事指導。
21	62.11.25	中野遺跡	中野町1丁目 1472-2	藤原 利	101	個人住宅	1×7mのトレンチを機械掘削。造構、 遺物なし。
22	62.12.9	西板井遺跡	西板井 785-2	北辻 博男	109	個人住宅	1×2mのトレンチを機械掘削。地山面で 溝検出。地山面上で基礎工事。
23	63.1.20	甲田遺跡	甲田 1078	高田 幸一	301	個人住宅	基礎工事立会。造構、遺物なし。
24	63.2.3	甲田南遺跡	甲田 1-32	高畠 耕一	100	個人住宅	基礎工事立会。盛土内で基礎工事。
25	63.2.12	別井遺跡	別井 6-2	中野 辰夫	460	個人住宅	1×5mのトレンチを機械掘削。地山面で ピット検出。地山面上で基礎工事指導。
26	63.2.20	新家遺跡	甲田532 -4、-5	森山 健治	300	個人住宅	浄化槽工事立会。造構、遺物なし。
27	63.2.22	鍋嶺南遺跡	鍋嶺1001-1	重根 隆治	347	個人住宅	1×3mのトレンチ機械掘削。地山面でピ ット検出。地山面上で基礎工事指導。
28	63.2.29	鍋嶺遺跡	鍋嶺 647-1	森井 耕一	436	個人住宅	

表1 発掘調査一覧表

II 調査に至る経過

喜志遺跡は、その存在が学界に注目されはじめたのは1910年代のことであるが、遺跡の内容等についてはほとんど不明のままであった。その後、1970年に初めて富田林市教育委員会が小規模ながら調査の機会を得て、遺構の存在を確認するに至った。^{註1}近年においては、増加の傾向にある開発工事に対して、大阪府教育委員会と富田林市教育委員会による本格的な発掘調査や立会、試掘調査によって、遺跡の内容や範囲についても次第に明らかになってきた。

今回の調査は、弥生集落の南限と考えられていた富田林市木戸山町579-1、-3において計画された共同住宅建設に伴うものである。建物の基礎部分と浄化槽布設部分を調査対象とし北から順に1~4のトレーナーを設定して発掘調査を実施した。

註1 桐原木治・島田貞彦『河内國高安及び喜志石器時代遺跡調査』(『京都帝國大學考古學研究報告』第2冊、1917年)

註2 北野耕平『富田林市史』第4巻考古編(1972年)
北野耕平・井上薰他『富田林市史』第1巻古代編(1985年)

III 位置と環境

喜志遺跡は、大阪府富田林市喜志町から木戸山町にかけての市内の北端地域と北方の羽曳野市東阪田の一部に所在する。石川中流域西岸の標高約50mの河岸段丘上にあり、石川中流域において古くからサヌカイト製打製石器等が出土することで、最も早く学界に知られた弥生時代の遺跡である。

喜志遺跡をはじめとする石川の河岸段丘上の遺跡についてみると、市内南部には、縄文時代前期の北白川下層式土器が出土した鉛筆遺跡や縄文時代後期の河道から大洞C式土器が出土した鉛筆南遺跡がある。喜志遺跡でも縄文時代後期・晚期の土器も出土しており、周辺の東阪田遺跡や喜志西遺跡では、縄文時代後期や弥生時代前期の土器が出土している。弥生時代中期になると、喜志遺跡をはじめとして中野遺跡や甲田南遺跡で集落が営まれる。なかでも、喜志・中野の両遺跡はサヌカイト製打製石器や木製品、石核、剣片が大量に出土することで周知されている。弥生時代後期は高地性集落が発達した時期である。市内南部の石川を西方に見おろす高地には彼方・彼方西遺跡がある。

古墳時代になると石川西岸の平地を一望できる丘陵地に古墳の分布をみることができる。喜



挿図1 周辺遺跡分布図



插図2 調査地位置図

志遺跡西方の羽曳野丘陵から東へ延びる一支派の端突には三角縁三神三獸獸帶鏡を出土した真名井古墳や定角有茎埴被式銅鏡を出土した什山古墳といった前期の前方後円墳をはじめとして横口式石棺を有する終末期のお龜石古墳がある。お龜石古墳は、石棺の周囲に飛鳥時代の寺院址である新堂廃寺に使用されていた平瓦と同質のものが積み上げられており、同古墳の被葬者が新堂廃寺の建立と深い関係があったことがうかがえる。また、新堂廃寺の西に接して寺名を推測させるオガンジ池があり、池の北斜面には飛鳥時代から天平時代にわたって新堂廃寺に屋瓦を供給していたオガンジ池瓦窯跡がある。寺院に近接した付属窯として貴重である。

歴史時代になると前述の新堂廃寺をはじめとして、細井廃寺や竜泉寺、錦織廃寺が建立され、石川中流域において仏教文化が授容されたことを示すものである。また、仏教思想の影響によって新しく火葬墓という葬送墓制が出現し、平地における甲田南遺跡の例をはじめとして丘陵上に営まれた古墳の墳丘の一角に設けられたものと丘陵上の斜面に存在するものが10数例認められる。いずれも奈良時代から平安時代に属する。同時期の集落址には前述の甲田南遺跡や中野遺跡、錦織南遺跡があり、中世に至っては喜志遺跡をはじめとして、中野遺跡、中野北遺跡、新家遺跡、錦織遺跡がある。南北朝動乱期には南朝方の山城が石川谷を一望できる丘陵上に立地する。なかでも竜泉寺城は『太平記』に登場する。中世末期には宗教自治都市である富田林寺内町が形成され、現代に至るまでまちの形態をとどめている。

IV 遺構

検出した遺構には、溝3・土壙16・ピット136がある。

溝1

第1トレンチと第2トレンチの西端で検出した。西の肩部が未検出のため幅は不明である。南北方向の溝である。溝2を切り込んでいる。深さ20cmを測る。埋土は濁灰黃褐色泥疊粘質土である。

溝2

第1トレンチから第4トレンチに連続する。南北方向の溝であるが、東西幅約26mの間に縱横無尽に分岐溝がみられる。分岐溝の幅は2~6.5cmである。深さは10~50cmを測る。溝の西と東にはさらに一段深くなった溝がある。西の溝は第2トレンチから第3トレンチにかけて南北方向に検出した。第2トレンチでは幅35cm、深さ15cmを測る。第3トレンチでは2本に分岐しており、幅60~100cmを測る。深さが第2トレンチに比べやや深いことから、南に流れていることがわかる。濁灰褐色粘質土に濁黄色粘質土がブロック状に混じる堆土である。東の溝は第1トレンチから第4トレンチにかけて北西から南東方向に検出した。幅は、第1トレンチで90cm、第2・3トレンチで130cm、第4トレンチで160cmを測る。深さは第1トレンチで34cm、第4トレンチで50cmを測り、南に流れていたことがわかる。断面はゆるやかなV字形をなしている。堆土は3層に分かれ、上から黒褐色粘質土、濁灰褐色粘質土、濁灰褐色泥疊粘質土の順に堆積している。上・中層は他の分岐溝と同一堆土である。西と東にみられる一段深くなった溝がだいに浅くなるにしたがって流れが複雑になっていったと思われる。

溝3

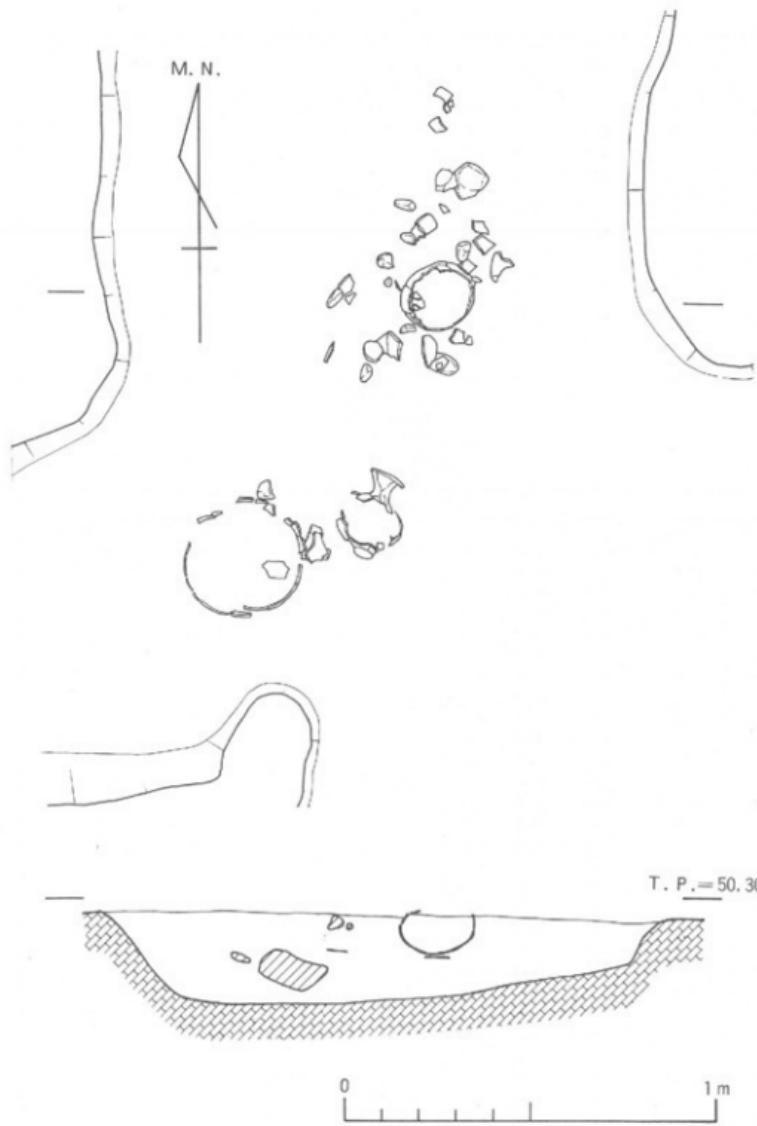
第1トレンチの東端で検出した南北方向の溝である。幅210cm、深さ6cmを測る。他の溝に比べ浅い。埋土は濁黄灰褐色泥疊粘質土である。

土壙

第1トレンチから第4トレンチまですべてのトレンチで検出した。第1トレンチで顕著にみられ、北に集中していることがわかる。第1・2トレンチでは上層3~6・9・10に円疊が集積する特徴があり、土壙1・4~6・8・9が一直線上に並ぶことがわかる。

ピット

第1トレンチから第4トレンチまでみられるが、特に第1トレンチに集中している。この傾向は土壙と同様である。



挿図3 溝2(第4トレンチ) 弥生土器出土状況平面図・断面図

土壤番号	平面形	規模(m)	深さ(m)	土色	遺物	備考
1	(円形)	(0.83) × 1.1	0.29	黒褐色粘質土	弥生土器、石製品	第1トレンチ
2	()	1.13 × (0.62)	0.12	暗褐色粘質土	"	"
3	()	(0.34) × 0.78	0.03	褐色灰褐色粘質土(円座が現じる)		"
4	不整形	1.34 × 1.2	0.25	灰褐色土(円座が現じる)	弥生土器	"
5	"	2.02 × 1.56	0.12	" ()	タマゴ殻	"
6	"	2.06 × 4.14	0.13	" ()	"	"
7	(圓丸方形)	(1.29) × (1.32)	0.11	褐灰褐色亞鐵粘質土		"
8	不整形	1.06 × 0.92	0.09	褐色灰褐色粘質土		"
9	"	1.86 × 2.68	0.09	灰褐色土(円座が現じる)	弥生土器	"
10	(圓丸方形)	0.92 × (0.58)	0.16	黃褐色泥炭粘質土		第2トレンチ
11	(不整形)	1.38 × (1.3)	0.04	褐色灰褐色粘質土		"
12	()	1.1 × (1.75)	0.16	"		"
13	(圓丸方形)	1.48 × (0.16)	0.21	"		"
14	(不整形)	(3.47) × (3.74)	0.56	暗褐色粘質土 黒褐色粘質土 暗灰褐色粘質土 暗灰黃褐色粘質土 褐黃褐色粘質土	弥生土器、石製品	第3トレンチ
15	()	(1.17) × (0.89)	0.35	褐灰褐色粘質土 黃褐色粘質土	"	"
16	()	1.41 × (1.12)	0.15	灰黃褐色土	"	第4トレンチ

表2 土壌一覧表

ピット番号	平面図	規模(m)	深さ(m)	土色	遺物	備考
1	円形	0.26 × 0.24	0.17	黒褐色粘質土	弥生土器	第1トレンチ
2	不整形	0.2 × 0.18	0.09	"		"
3	円形	0.16 × 0.16	0.14	"		"
4	"	0.17 × 0.14	0.07	"		"
5	"	0.18 × 0.16	0.11	"	弥生土器	"
6	"	0.13 × 0.14	0.06	"		"
7	不整形	0.31 × 0.29	0.19	"		"
8	楕円形	0.24 × 0.21	0.14	"		"
9	不整形	0.17 × 0.16	0.12	"	弥生土器	"
10	"	0.14 × 0.14	0.07	"		"
11	円形	0.2 × 0.17	0.12	"		"
12	"	0.18 × 0.16	0.11	"	弥生土器	"
13	(圓丸方形)	0.19 × 0.18	0.09	"		"
14	不整形	0.17 × 0.16	0.12	"		"
15	"	0.16 × 0.35	0.1	"	弥生土器	"
16	円形	0.17 × 0.15	0.06	"		"
18	不整形	0.16 × 0.16	0.14	"		"
19	"	0.2 × 0.18	0.06	"		"
20	(楕円形)	(0.16) × 0.19	0.06	"	弥生土器	"
21	不整形	0.26 × 0.2	0.06	"		"
22	円形	0.14 × 0.14	0.10	"		"
23	不整形	0.24 × 0.24	0.08	"		"
24	円形	0.28 × 0.32	0.09	"		"
25	"	0.12 × 0.12	0.09	"		"
26	不整形	0.11 × 0.12	0.05	"		"
27	円形	0.46 × 0.50	0.05	褐色灰褐色粘質土(円座が現じる)		"
28	"	0.23 × 0.48	0.03	灰黃褐色土		"
29	(楕円形)	0.19 × (0.7)	0.02	"		"
30	"	0.67 × 0.33	0.18	褐色灰褐色粘質土		"
	"	0.52 × 0.89	0.05	"		"

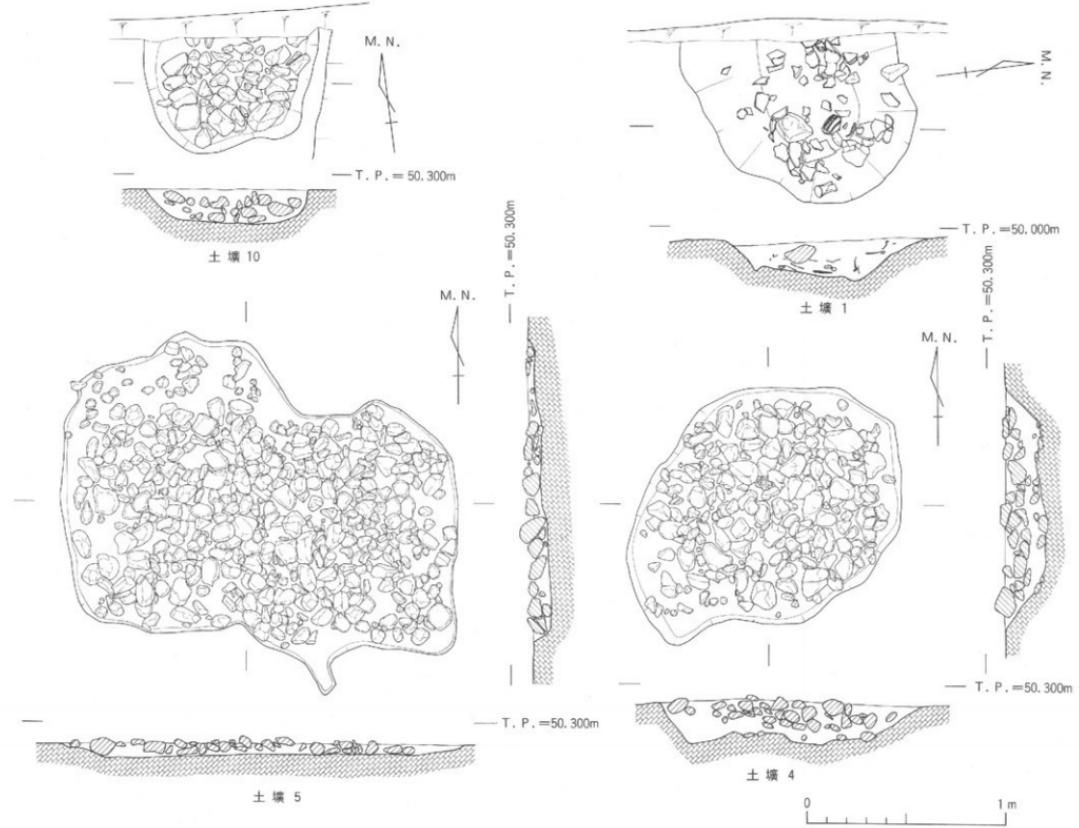
表3 ピット一覧表

ビット番号	平面形	周 横 (m)	深さ(m)	土 色	遺 物	備 考
31	不整形	0.54 × 0.36	0.14	暗灰褐色粘質土		第1トレント
32	"	0.26 × 0.27	0.02	"		"
33	圓丸方形	0.2 × 0.2	0.06	暗黄灰褐色粘質土		"
34	"	0.16 × 0.17	0.09	灰褐色土	鉛生上器	"
35	不整形	0.28 × 0.58	0.11	暗黄灰褐色粘質土		"
36	円 形	0.32 × 0.32	0.16	"		"
37	"	0.14 × 0.13	0.06	"		"
38	不整形	0.14 × 0.26	0.1	"		"
39	"	0.22 × 0.17	0.07	"		"
40	"	0.41 × 0.26	0.1	"		"
41	"	0.3 × 0.51	0.04	"		"
42	"	0.22 × 0.2	0.06	"		"
43	円 形	0.23 × 0.24	0.06	"		"
44	楕円形	0.57 × 0.18	0.05	"		"
45	円 形	0.38 × 0.4	0.08	"		"
46	不整形	0.22 × 0.16	0.27	"		"
47	楕円形	0.2 × 0.21	0.08	暗黄灰褐色粘質土		"
48	"	0.21 × 0.32	0.07	"		"
49	"	0.16 × 0.2	0.08	"		"
50	(楕円形)	0.56 × 0.46	0.26	暗黄褐色粘質土		"
51	楕円形	0.2 × 0.29	0.04	"		"
52	円 形	0.18 × 0.14	0.05	"		"
53	圓丸方形	0.14 × 0.16	0.05	灰褐色土		"
54	"	0.24 × 0.32	0.19	"		"
55	不整形	0.3 × 0.32	0.09	暗黄褐色粘質土		"
56	"	0.28 × 0.42	0.12	"		"
57	"	0.23 × 0.3	0.1	"		"
58	圓丸方形	0.38 × 0.25	0.13	"		"
59	不整形	0.38 × 0.55	0.08	"		"
60	"	0.35 × 0.42	0.17	"		"
61	円 形	0.38 × 0.4	0.11	"		"
62	楕円形	0.31 × 0.19	0.05	"		"
63	不整形	0.58 × 0.34	0.12	"		"
64	"	0.2 × 0.14	0.06	"		"
65	"	0.31 × 0.28	0.13	"		"
66	"	0.5 × 0.34	0.03	"		"
67	"	0.5 × 0.45	0.18	"		"
68	"	0.33 × 0.28	0.07	"		"
69	"	0.22 × 0.24	0.09	"		"
70	"	0.32 × 0.34	0.11	"		"
71	円 形	0.28 × 0.27	0.1	暗灰褐色粘質土		"
72	不整形	0.21 × 0.25	0.13	暗褐色粘質土		"
73	"	0.18 × 0.16	0.09	"		"
74	"	0.18 × 0.22	0.06	"		"
75	(圓丸方形)	2.5 × (0.36)	0.09	暗灰褐色粘質土		"
76	不整形	0.68 × 0.31	0.05	暗黄褐色粘質土		"
77	"	0.14 × 0.13	0.04	灰褐色土		"
78	"	0.11 × 0.11	0.07	"		"
79	"	0.14 × 0.13	0.04	"		"
80	円 形	0.13 × 0.11	0.05	"		"
81	"	0.14 × 0.14	0.07	"		"
82	"	0.09 × 0.09	0.04	"		"
83	楕円形	0.14 × 0.09	0.03	"		"

表3 ピット一覧表

ピット番号	平面形	底 線 (m)	深さ(m)	土 色	遺 物	備 考
84	円 形	0.13 × 0.11	0.05	灰褐色土		第1トレント
85	"	0.1 × 0.08	0.03	"		"
86	"	0.1 × 0.1	0.04	"		"
87	不 整 形	0.18 × 0.21	0.07	"		"
88	円 形	0.07 × 0.07	0.08	暗灰褐色粘土質土		第2トレント
89	"	0.08 × 0.08	0.07	"		"
90	"	0.18 × 0.19	0.08	暗灰褐色粘土質土		"
91	"	0.12 × 0.11	0.09	暗灰黃褐色粘土質土		"
92	不 整 形	0.42 × 0.38	0.08	"		"
93	(隅丸方形)	(0.23) × 0.5	0.04	灰褐色粘土質土		"
94	円 形	0.21 × 0.22	0.22	暗灰褐色粘土質土		"
95	梢 円 形	0.28 × 0.3	0.14	暗灰褐色粘土質土		"
96	"	0.14 × 0.16	0.08	"		"
97	"	0.3 × 0.2	0.03	灰褐色土		"
98	隅丸方形	0.22 × 0.27	0.06	"	発生上層	"
99	(隅丸方形)	0.32 × (0.24)	0.04	"		"
100	梢 円 形	0.64 × 0.4	0.08	暗灰褐色粘土質土		"
101	円 形	0.17 × 0.15	0.03	灰褐色土		"
102	不 整 形	0.54 × 1.2	0.17	暗灰褐色粘土質土		"
103	"	0.45 × 0.5	0.24	暗灰褐色粘土質土	発生土層	"
104	(梢 円 形)	0.45 × 0.38	0.15	"		"
105	隅丸方形	0.28 × 0.3	0.12	暗灰褐色粘土質土		"
106	不 整 形	0.67 × 0.47	0.11	暗灰黃褐色粘土質土		"
107	梢 円 形	0.34 × 0.22	0.12	暗灰褐色粘土質土		"
108	"	0.18 × 0.23	0.12	"		"
119	隅丸方形	0.28 × 0.28	0.14	"		"
110	"	0.3 × 0.27	0.16	暗灰褐色粘土質土		"
111	円 形	0.23 × 0.22	0.14	暗褐色粘土質土		"
112	梢 円 形	0.2 × 0.16	0.04	暗灰褐色粘土質土		"
113	隅丸方形	0.22 × 0.23	0.13	"		"
114	不 整 形	0.32 × 0.41	0.23	"		"
115	(不 整 形)	(0.16) × 0.28	0.10	暗灰褐色粘土質土		第3トレント
116	(梢)	0.3 × (0.21)	0.08	灰褐色粘土質土		"
117	不 整 形	0.87 × 0.58	0.27	黃褐色粘土質土		"
118	"	0.43 × 0.52	0.14	"		"
119	円 形	0.23 × 0.24	0.07	"		"
120	不 整 形	0.7 × 0.84	0.22	暗灰褐色粘土質土		"
121	円 形	0.2 × 0.17	0.12	暗灰褐色粘土質土		"
122	梢 円 形	1.9 × 1.9	0.11	暗灰褐色粘土質土		"
123	"	0.2 × 0.2	0.05	灰褐色粘土質土		第4トレント
124	"	0.45 × 0.24	0.07	灰褐色土		"
125	"	0.3 × 0.26	0.06	"		"
126	"	0.22 × 0.24	0.1	"		"
127	"	0.14 × 0.16	0.07	"		"
128	"	0.15 × 0.18	0.08	暗灰褐色粘土質土		"
129	不 整 形	0.35 × 0.31	0.07	灰褐色土	発生上層	"
130	隅丸方形	0.35 × 0.26	0.09	暗灰褐色粘土質土		"
131	円 形	0.34 × 0.31	0.15	灰褐色土	土鉢層	"
132	梢 円 形	0.23 × 0.17	0.12	暗灰褐色粘土質土		"
133	円 形	0.18 × 0.18	0.07	"		"
134	(梢 円 形)	0.18 × (0.23)	0.08	"		"
135	円 形	0.23 × 0.22	0.33	灰褐色土	土鉢層	"
136	(梢 円 形)	(0.74) × 0.4	0.12	暗灰褐色粘土質土		"

表3 ピット一覧表



插図4 土壌1・4・5・10 平面図・断面図

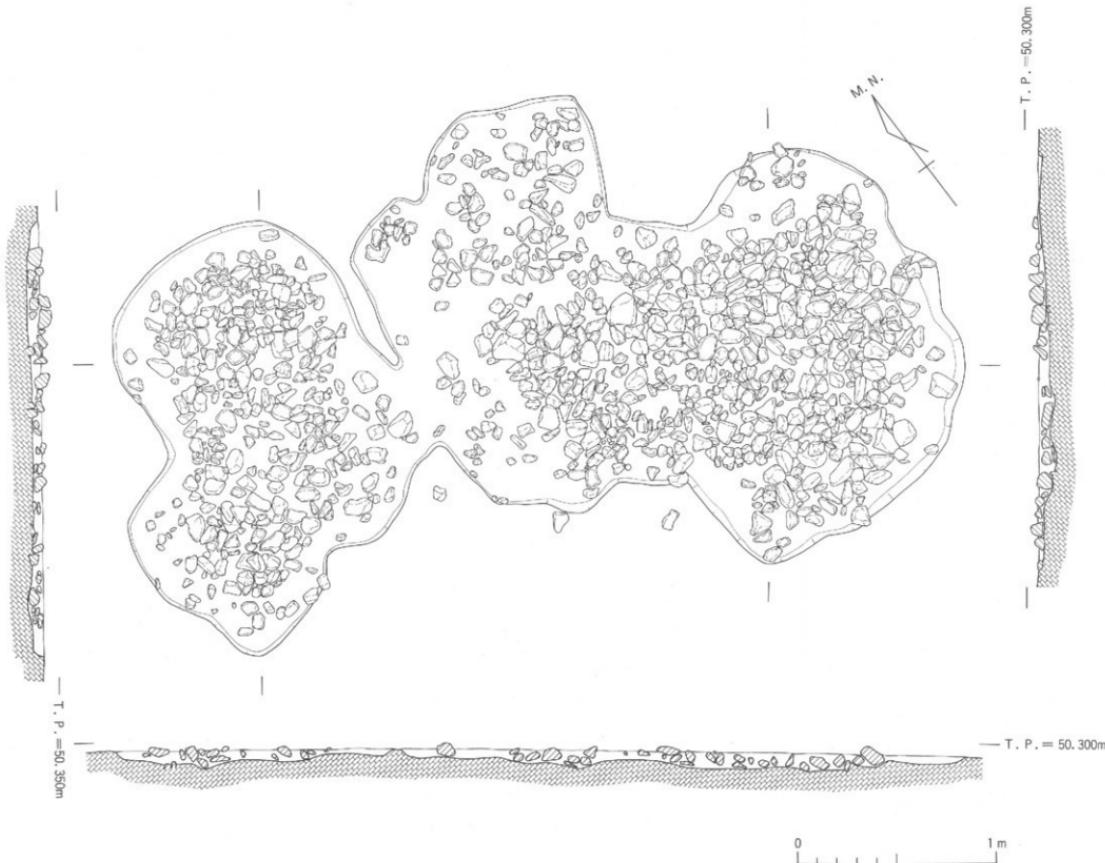
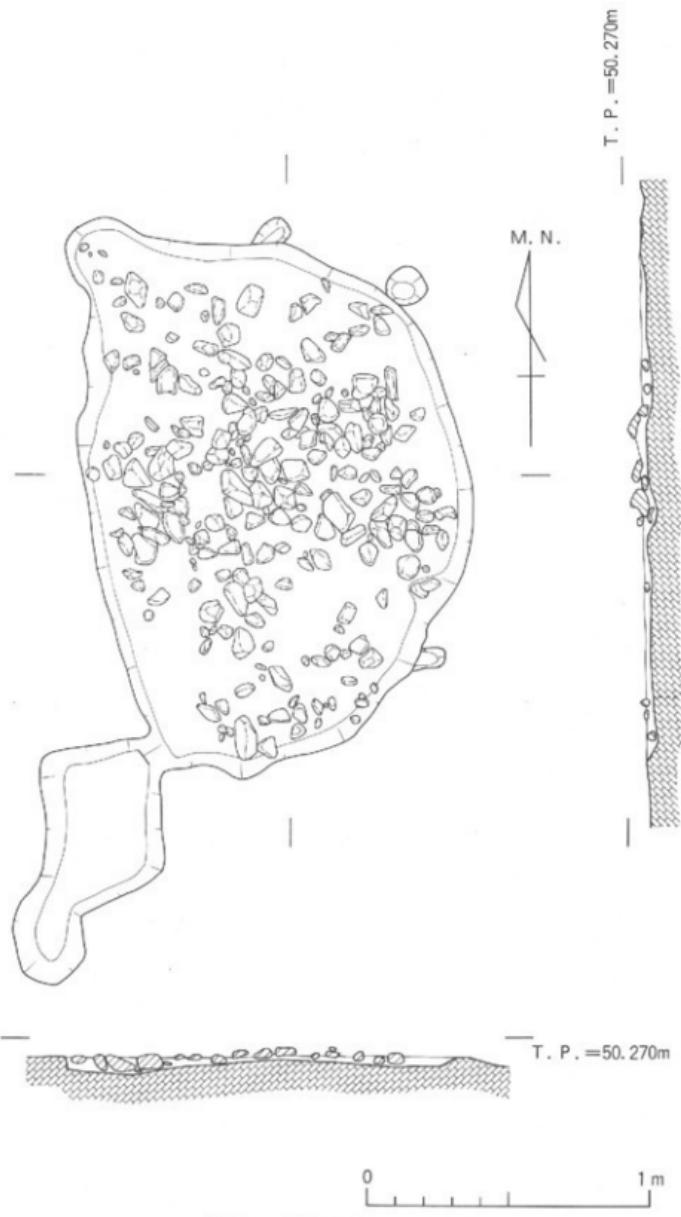


插图 5 土壤 6 平面图·断面图



插図6 土壌9 平面図・断面図

V. 出土遺物

土器類、土製品、石製品およびサスカイトの石核・剣片が出土している。各遺構からの出土状況は、表4のとおりである。以下、土器類、土製品、石製品の順に観察する。

1. 土器類

土器類には、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・土師質土器・陶磁器などがある。大半は、溝2から出土している。以下、図示したものを中心に、遺構ごとに観察する。

なお、弥生土器の分類は基本的に『池上遺跡』土器編によった。また、生駒西麓産のものには、実測断面に  を入れた。

溝2（挿図7・8・9・10・11 図版13・14 (1)～30）

弥生土器

中期のものが大半を占めるが後期のものもある。

広口壺形土器 A (1～14)

頸部の長さによって2タイプに分けることができる。

長い頸部のもの（1～3・5・6・16）と短い頸部のもの（4・7～14）がある。

前者は、口縁端部がほとんど拡張しないもの（1～3）と、上方にのみ拡張するもの（5）、上・下に拡張するもの（6）、下方に拡張するもの（16）がある。

後者は、上方に拡張するもの（4・7）と下方に拡張するもの（8～14）がある。

(16)は、小型の口縁である。わずかに簾状文の痕跡が残る。体部は、やや下位に最大径をもつ。

広口壺形土器 B (15・16)

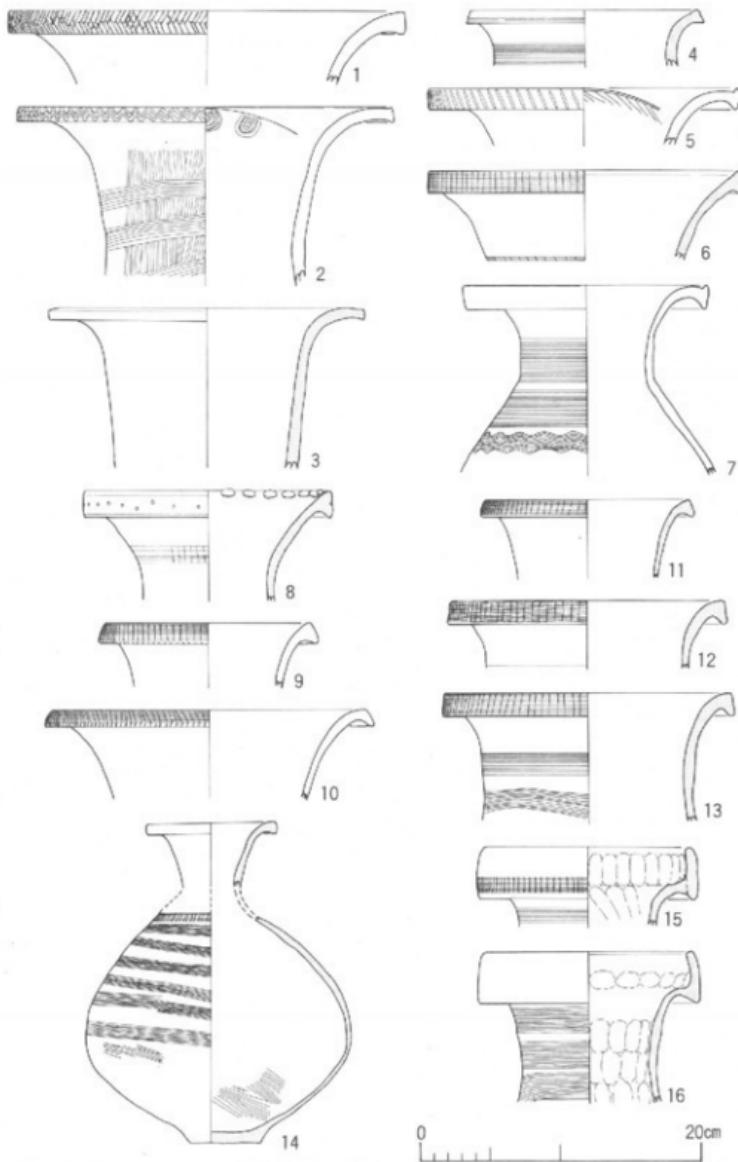
上方に大きく下方にわずかに拡張する口縁部をもつ。口縁部は、直立気味である。(16)は、口縁部に簾状文の痕跡が残る。図示したもの以外に口縁部が上方にのみ拡張するものがある。この中には、口縁下端に丸みをもち、口縁部外面に凹線文を施すものがある。

広口壺形土器 C (17～23)

口縁部の形から3タイプに分けることができる。

口縁端部が、ほとんど拡張しないもの（17～19・23）、下方に拡張するもの（20）、ほぼ水平に開き端部で上・下に肥厚するもの（21・22）がある。

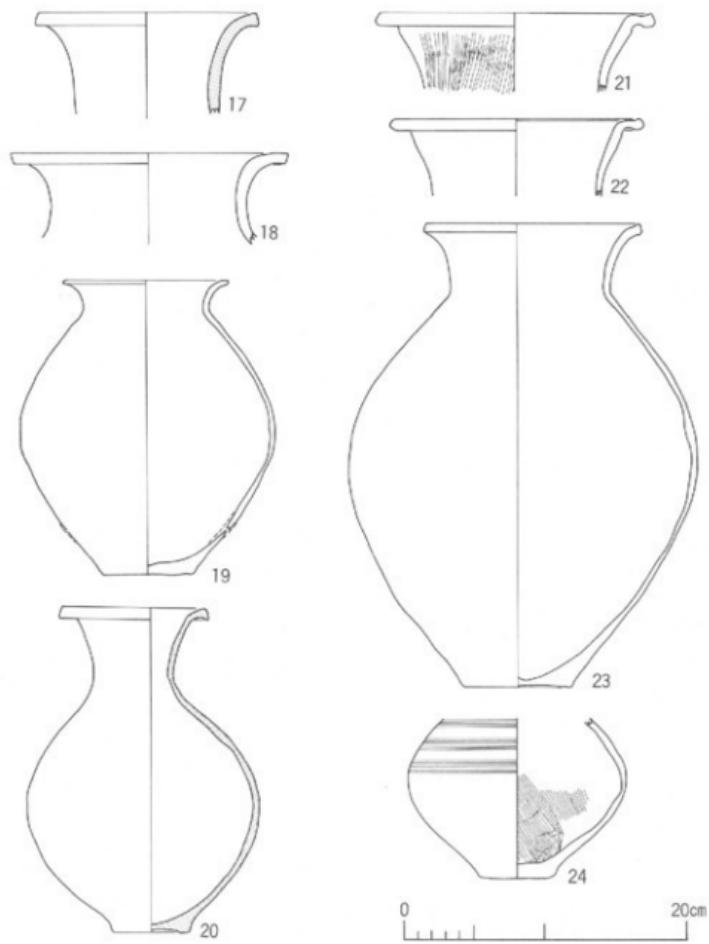
(19)は、口縁端部が丸くおさまり、縱長の体部をもつ。剣離のため器壁が厚さ約2分の1になっている。(23)は、縱長の体部に、わずかに上げ底の底部をもつ。(20)は、丸みをもつ体部に、わ



插図7 溝2出土土器

遺構	赤土	生土	土師器	須恵器	瓦	器	土師質 土器	須恵質 土器	瓦質 器	石器	その他
溝 1	○									○	サヌカイト
溝 2	○			○	○					○	サヌカイト・土製円盤・焼土塊
溝 3	○										
土壙 1	○									○	サヌカイト
土壙 2	○										サヌカイト
土壙 4	○									○	
土壙 5	○			○							サヌカイト
土壙 6	○										サヌカイト
土壙 9	○										サヌカイト
土壙 10											サヌカイト
土壙 14	○									○	サヌカイト
土壙 15	○										サヌカイト
土壙 16	○										サヌカイト
ピット 1	○										
ピット 5	○										
ピット 9	○										
ピット 12	○										
ピット 13	○										
ピット 15	○										
ピット 19	○										サヌカイト
ピット 27											サヌカイト
ピット 34	○										
ピット 51	○										土製円盤
ピット 90											サヌカイト
ピット 93											サヌカイト
ピット 98	○										
ピット 103	○										
ピット 104	○										
ピット 123											唐津焼
ピット 129	○										
ピット 131		○									
ピット 135		○									

表4 各遺構出土遺物一覧表



挿図8 溝2出土土器

すかに上げ底の底部をもつ。全体に磨滅が著しいため広口壺形土器Cに分類したが、広口壺形土器Aの可能性もある。

壺形土器 24

広口壺形土器の体部である。体部は、球形で平底である。

高杯形土器A (25・26)

口縁部が、内擣氣味に立ち上がるものの(25)、稜をもって立ち上がるものの(26)がある。(26)の

杯部と脚部の接合は、円盤充填法による。

高杯形土器B (27)

口縁端部が下方にわずかに拡張するもの(27)と重下するものがある。

高杯形土器の脚台部には、裾端部が上方にのみ拡張する(28~31・34)と上方へ立ち上がり、下方へわずかに肥厚する(33・35~37)がある。また、(32)は後期のもので、杯部と脚部の接合が差し込み法による。

鉢形土器A (38・40)

深い碗状の体部をもつもの(38)、丸みをもって立ち上がる口縁部のもの(40)がある。(38)は、小型である。このタイプは1例のみである。

鉢形土器B (42)

内傾する段状の口縁部のものである。

鉢形土器C (44)

短く外反する口縁部のものである。端部は、やや下外方に大きく拡張する。

鉢形土器D (41)

大きく開く口縁部のものである。

台付鉢形土器 (43)

棱をもって立ち上がる直口のものである。口縁部外面に凹線文が2条めぐる。鉢部と脚部の接合は、円盤充填法による。

鉢形土器の脚部には、裾部が大きく開き、端部で上方に拡張するもの(48)、筒状のもの(49)がある。また、(39)は小型で手づくねのもので鉢形土器と分類したが、壺形土器あるいは蓋形土器の可能性もある。

脚 台 (45~47)

脚部のみ残存するものをここで扱う。小型で手づくねの斜めに広がる裾部のもの(45)、ゆるやかにカーブした後、直線的に広がる裾部のもの(46・47)がある。

台付無頸壺形土器 (50)

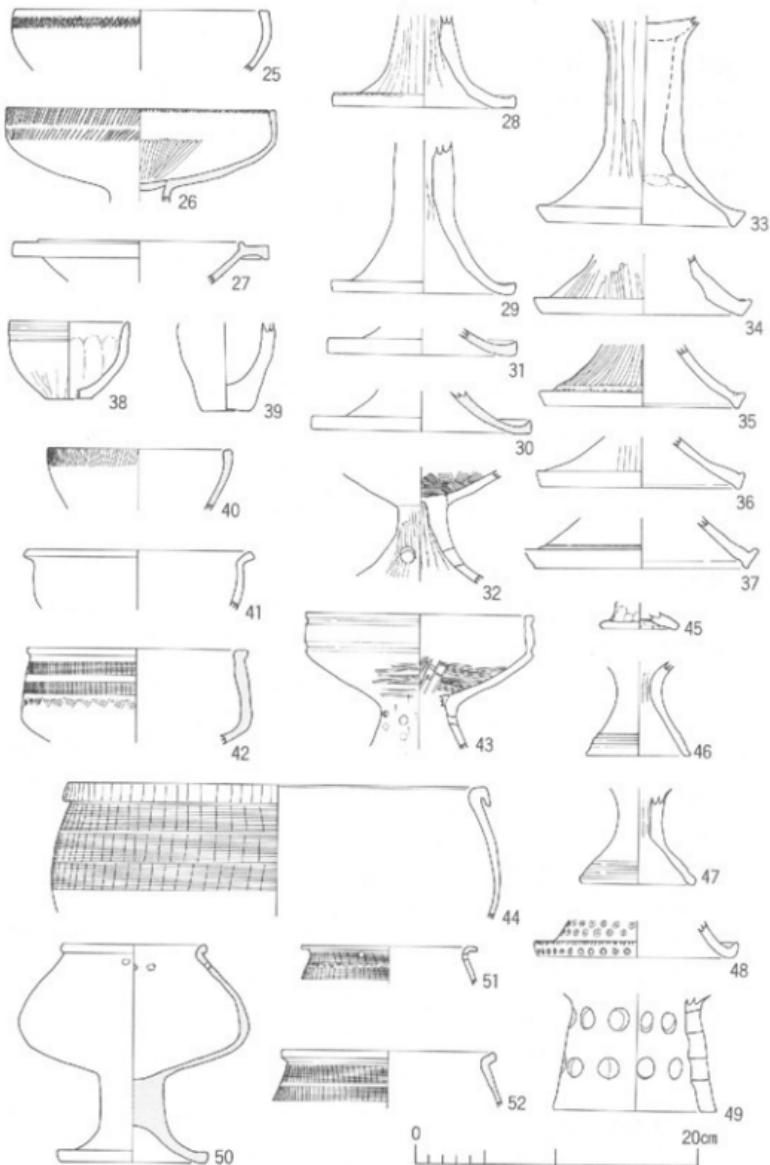
無頸壺形土器Bと脚台を結合した形態のものである。この1例のみである。口縁部に刻み目、体部に簾状文の痕跡が残る。

無頸壺形土器B (51・52)

水平に屈曲する口縁部のもの(51)、短く外反する口縁部のもの(52)がある。(51)は、口縁下に円孔が穿たれている。

蓋形土器 (53)

笠形を呈す。2個1組の紐孔をもつ。



插図9 满2出土土器

細頸壺形土器 (54・55)

54は、口縁端部が欠損している。いずれも筒状の頸部に内側する口縁部をもつ。54は直線文の痕跡が残る。

壺形土器 (56~75)

口径が15cm以下のもの (56~60・62) を小型、15cm~20cmのもの (63・64) を中型、20cm以上のもの (65~75) を大型のものとした。

小型には、口縁端部に面をもつ(56)~(60)・(62)と丸くおさまる(61)がある。また、体部外面をヘラケズリ調整する(56)と刷毛目調整する(57)がある。体部内部を刷毛目調整する(58)とヘラミガキ調整する(59)がある。

中型には、体部外面をヘラケズリ調整する(63)とヘラミガキ調整する(64)がある。

大型には、口縁端部が上方に拡張する (65・69) と下方に拡張する (66~68・70~75) がある。下方に拡張するものには、口縁部に刺突文を施すもの (66~69) と口縁下端に刻み目を施すもの (70) がある。(73)は、体部下半に焼成後、穿孔されている。大型のものは、大半が生駒西麓産のものである。

台形土器 (76)

円盤状の台部に、裾広がりの脚部がつく。喜志遺跡では、初めての出土例である。

底 部 (77~80)

底部には、焼成前に穿孔されているもの (77・78) がある。また、後期の底部が2点(あり)、平行タタキ調整されている (79・80)。

土壤 1 (挿図12 図版15 (81~91)

弥生土器

広口壺形土器A (81・82)

頸部からなだらかに外反する口縁部のものである。

広口壺形土器B (83・84)

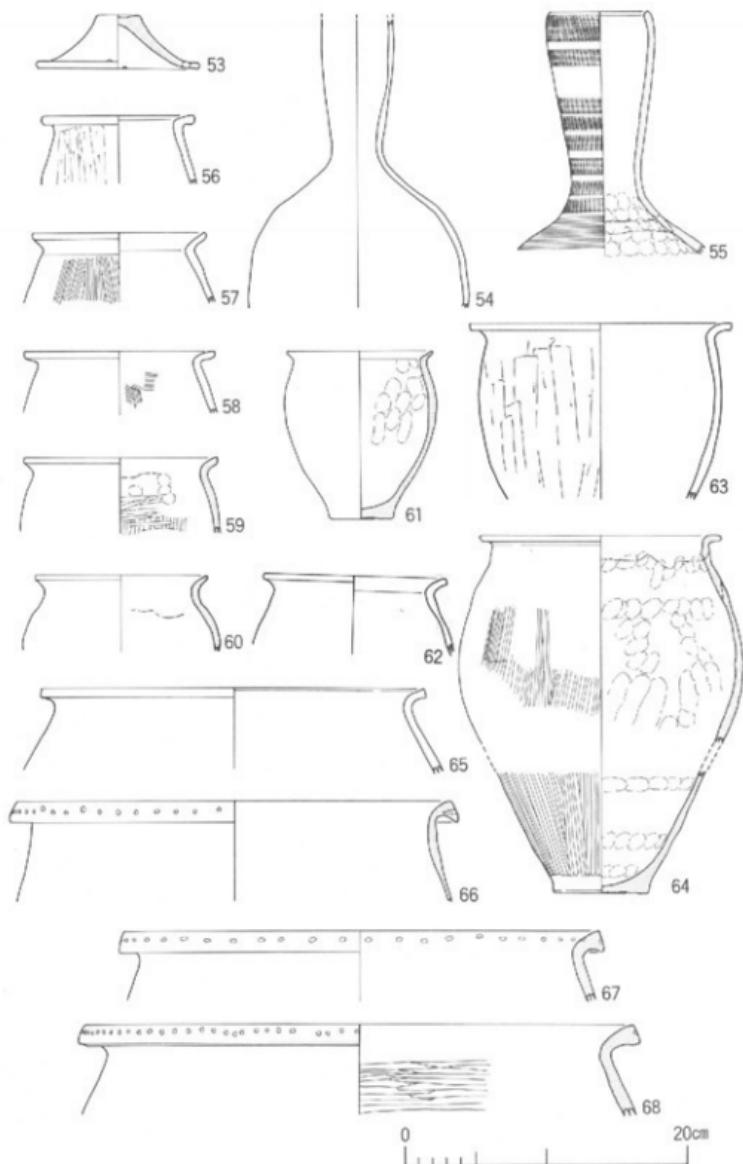
頸部からなだらかに外反したのち、上方に大きく、下方にわずかに拡張する口縁部のものである。

壺形土器H (85)

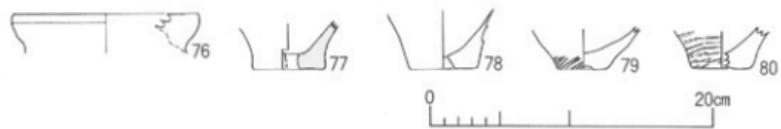
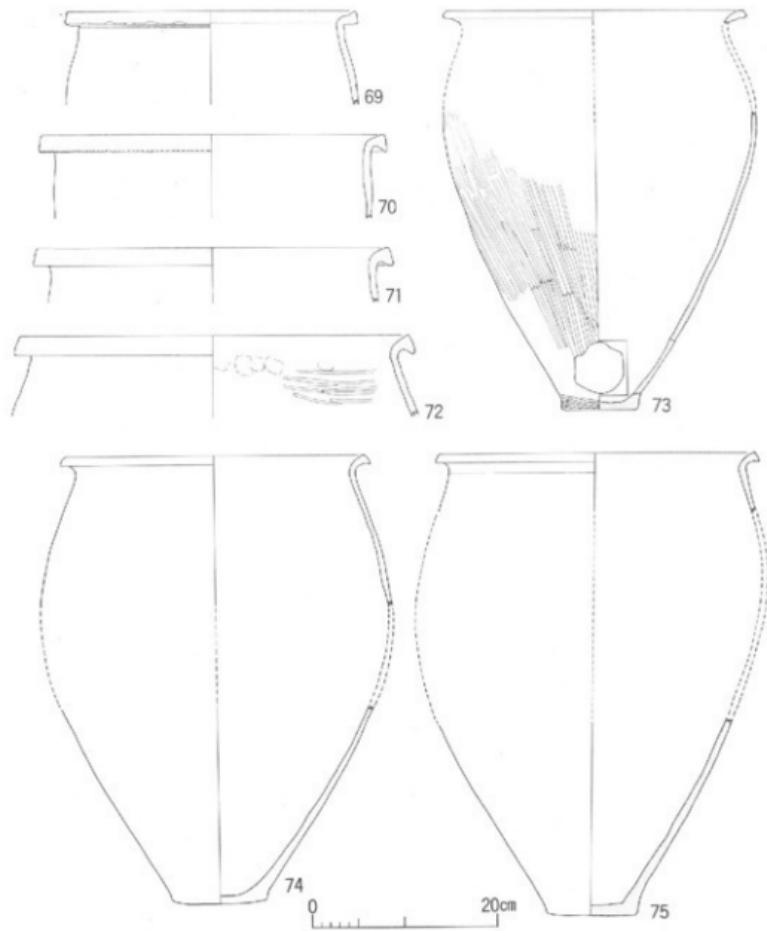
外反する頸部が残存する。外面に直線文・波状文・凸滑文が施されている。生駒西麓以外の地域からの搬入品である。

細頸壺形土器 (86)

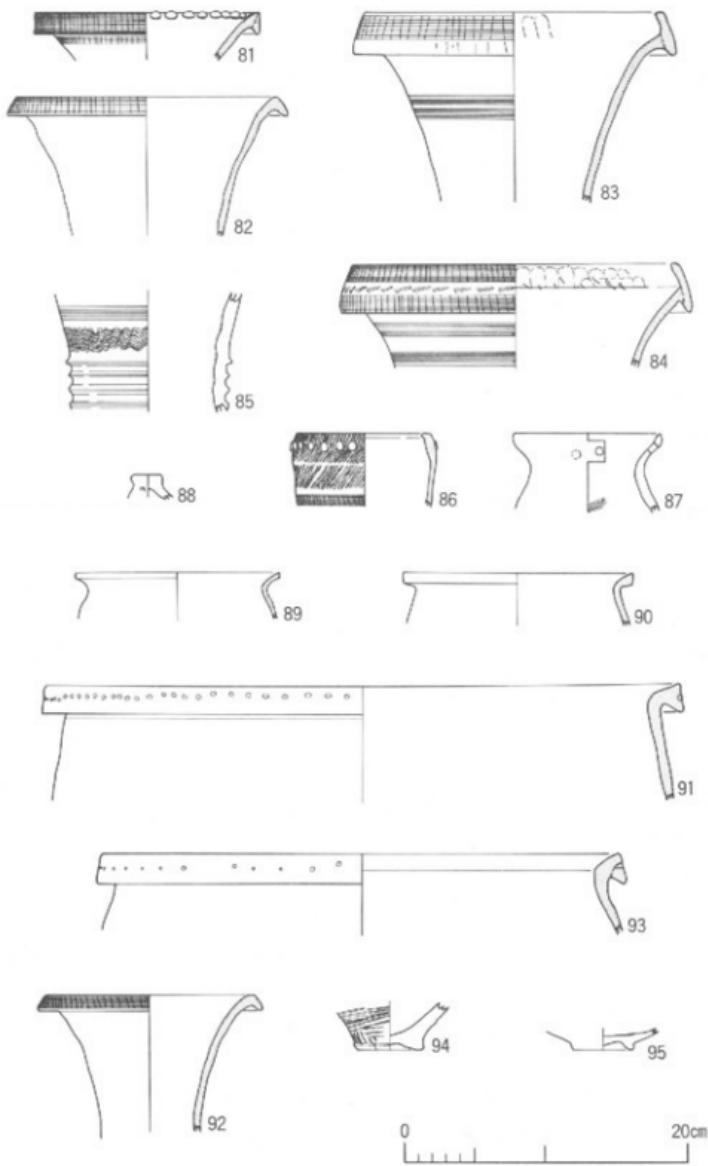
筒状の頸部に、やや内側する口縁部をもつ。端部は、内側に肥厚して上端に平坦面をもつものである。



插図10 满2出土土器



插図11 溝2出土土器



插図12 土壌1・14、ピット122、包含層出土土器

短頸壺形土器 (87)

口頭部は短く外反したのち、受口状にのびる。喜志遺跡では、初めての出土例である。

蓋形土器 (88)

つまみ部分のみ残存する。つまみ径、1.75cmの小型のものである。

甕形土器 (89~91)

小型(89・90)と大型(91)がある。小型のものは、口縁端部面をもつ。大型のものは、内面に丸みをもって外反する口縁部で、端部は、上・下に拡張する。

土壤14 (挿図12 図版15 (92)・(93))

弥生土器

広口壺形土器A (92)

頸部からならかに外反する口縁部をもつ。口縁端部は、下外方に拡張する。

甕形土器 (93)

大型のものである。口縁部は、下方に拡張する。

ビット123 (挿図12 (95))

唐津焼

底 部 (95)

見込みに胎土目跡が残る。

包含層 (挿図12 (94))

弥生土器

底 部 (94)

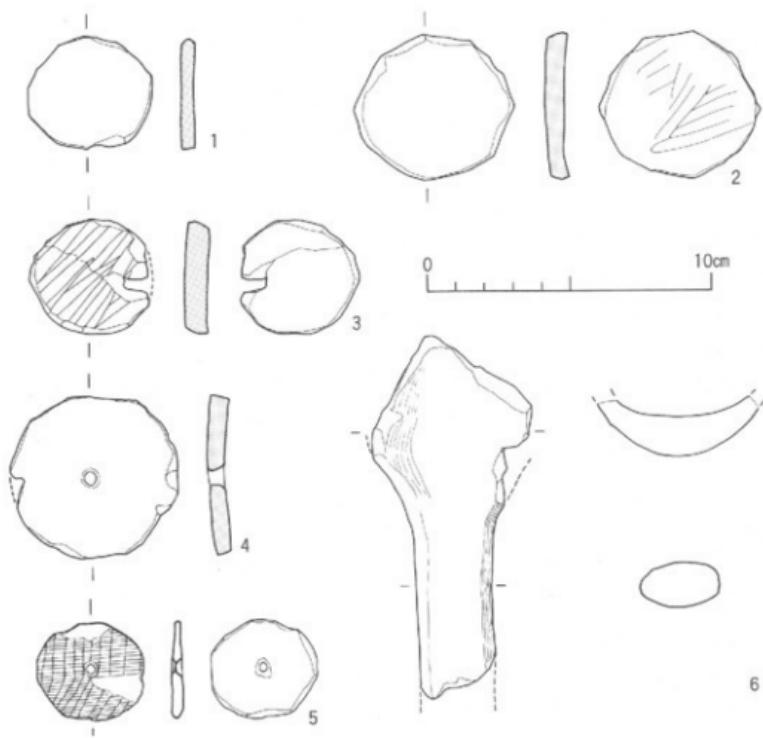
後期のものである。底部外面に平行タタキ調整が施されている。

註1 大阪文化財センター「池上遺跡」第2分冊 土器編 (1984年)

2. 土 製 品

土製円板 (挿図13 図版15 (1~3))

溝2(1・3)とビット51(2)から3点出土している。土器の破片を利用したものである。(1)は、径4.4cm、厚さ0.5cmを測る。(2)は、径4.15cm、厚さ0.85cmを測る。(3)は、径5.6cm、厚さ0.7cmを測る。(2・3)は、片面にヘラミガキ調整が残る。



挿図13 溝2、ピット51出土土製品

紡錘車 (挿図13 図版15 (4・5))

溝2(4・5)から2点出土している。土器の破片を利用したものである。中央に円孔が穿たれている。(4)は、径5.75cm、厚さ0.7cm、円孔径0.4cmを測る。(5)は、径3.7cm、厚さ0.4cm、円孔径0.3cmを測る。(5)は、片面に縦状文が残る。

不明土製品 (挿図13 図版15 (6))

この1点のみである。両端を欠損しているため全体の形状は不明であるが、一端が凹み、舟子状を呈する。現存長12.9cmを測る。喜志遺跡では、初めての出土である。

(田川友美)

3. 石製品

石器のほか未製品および石核・剝片が、コンテナバットに15箱出土した。石核と剝片は重量にして総出土量の98.5%を占める。溝2からは、1cm以下の碎片が多量に出土し、石礫などの石器も、そのほとんどがこの遺構からの出土である。各石器の法量および出土遺構は表5に示した。

打製石器には、石礫・石剣・石槍・石錐、磨製石器には石剣・小型扁平片刀石斧・石庖丁・紡錘車がある。打製石器は全てサヌカイト製である。他に砥石や叩き石がある。未製品には石錫・石庖丁がある。

石錫（插図14・15 図版16・17 （1～27））

打製石錫（1～23）と未製品（24～27）がある。

打製石錫は全てサヌカイト製で、円基無茎式（1・2）、円基無茎式（3～10）、尖基無茎式（11～18）、凸基有茎式（19～23）が破片も含め50点以上が出土した。尖基無茎式が最も多く、円基無茎式・凸基有茎式がそれに次ぐ。四基無茎式はわずか3点にすぎない。平基無茎式も少數ある。

石錫の長さは凹基式が2.0～3.0cmで、円基・尖基式は2.0～7.5cm前後までバラエティに富むが、3.0～4.5cmのものが多い。凸基有茎式は5cm前後が多い。尖基式には片面もしくは両面に主削離面を大きく残すものがめだつ。

未製品（24～27）は幅2.5～3.5cm、長さ5.0～6.0cm前後の稍円形をなすものが多い。（27）は錫の未製品とするにはやや大形すぎ、他の石器の未製品かもしれない。

石剣・石槍（插図16 図版18 （28～32））

磨製石剣は粘板岩製が2点出土している（28）。（29～32）は打製のもので、（31）は両面の一部が研磨されている。（32）は未製品かも知れない。

石庖丁（插図17 図版20 （33～37））

全て緑色片岩を用いている。半月形直線刃（34～36）が多く、柄円形あるいは杏仁形も少数存在する。（34）は背面の一部をえぐっている。他に1点未製品の可能性の高いものがある。

小型扁平片刀石斧（插図18 図版20 （38））

サヌカイトを用いている。刃部と両面を研磨しているが、上部と側面には粗い打ち欠き痕をそのまま残している。

削器（插図18 図版20 （39））

2.8×3.8cmの小形のサヌカイト製石器である。長辺の一方に細部調整を加え刃部とし、その後刃部も含め四側縁と両面に部分的な研磨を加えている。二側縁に原面が残る。

番号	出土地点	種類	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
1	溝 2	石鑿(凹基無刃式)	2.20	1.4	0.3	0.86
2	"	" ("")	(2.8)	1.7	0.4	1.30
3	"	" (円基無刃式)	(2.5)	1.3	0.35	0.89
4	"	" ("")	2.6	1.9	0.35	0.09
5	包含層	" ("")	3.9	1.4	0.5	2.0
6	溝 2	" ("")	(4.2)	1.8	0.55	4.3
7	"	" ("")	5.3	1.3	0.45	2.7
8	"	" ("")	(7.7)	2.3	0.55	9.33
9	"	" ("")	3.3	2.3	0.6	4.30
10	"	" ("")	(3.7)	2.0	0.5	3.9
11	"	" (尖基無刃式)	(1.5)	0.9	0.3	0.24
12	"	" ("")	3.25	1.75	0.45	2.0
13	"	" ("")	(3.6)	1.3	0.45	1.75
14	"	" ("")	3.8	1.4	0.42	2.25
15	"	" ("")	6.2	2.2	0.4	5.05
16	"	" ("")	2.9	1.3	0.4	1.19
17	土 塵 14	" ("")	3.5	1.6	0.45	2.22
18	"	" ("")	4.3	1.5	0.35	1.98
19	溝 2	" (凸基有刃式)	(4.8)	1.4	0.55	3.35
20	"	" ("")	(4.0)	2.0	0.5	3.02
21	"	" ("")	(3.7)	2.2	0.5	3.89
22	"	" ("")	(3.9)	2.7	0.6	4.94
23	"	" ("")	(3.2)	(2.9)	0.5	4.14
24	"	石 鋸 木 製 品	5.2	2.7	0.9	12.10
25	包 含 層	"	5.5	3.5	1.6	29.45
26	溝 2	"	5.5	3.8	0.8	16.85
27	"	"	9.0	5.1	1.8	84.0
28	"	石 刃 (磨製)	(4.1)	2.2	0.55	6.2
29	"	石 刃	(9.0)	3.3	1.4	53.14
30	"	石 柄	(5.85)	2.7	1.1	13.95
31	"	石 刃	(13.5)	4.6	2.1	164.2
32	"	石 柄 木 製 品	(9.9)	3.5	1.9	66.38
33	"	石 柄	(9.8)	5.35	0.5	41.29
34	"	"	(10.2)	5.6	0.9	78.63
35	"	"	(8.26)	3.85	0.9	39.29
36	"	"	(7.6)	5.0	0.65	31.80
37	"	"	(8.8)	6.0	0.6	48.93
38	"	小型扁平片刃石斧	4.3	2.6	0.9	12.32
39	"	削 鋸	2.8	3.8	1.1	15.4
40	"	纺 线 车	4.1	3.9	0.5	11.36
41	包 含 層	纺 线 车 (木製品)	4.9	5.4	0.75	27.03
42	土 塵 14	砥 石	16.8	3.0	3.1	200.0
43	"	叩 き 石	5.0	5.1	4.15	151.0
44	"	"	(13.1)	8.5	5.8	1630.0
45	包 含 層	"	6.1	4.9	4.9	230.0

表5 石製品法量表

()は現在値

出土地點	大きさ	(単位: cm)					
		$\ell \leq 1$	$1 < \ell \leq 3$	$3 < \ell \leq 5$	$5 < \ell \leq 10$	$\ell > 10$	計
ビット 27	0 (0)	0 (0)	0 (0)	104 (100)	0 (0)	0 (0)	104
ビット 34	0 (0)	2.5 (11.1)	20 (88.9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22.5
ビット 90	6 (17.3)	4.9 (14.2)	0 (0)	23.7 (68.5)	0 (0)	0 (0)	34.6
ビット 93	4 (58.6)	2.8 (41.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6.8
上 磨 1	192.2 (8.0)	638.7 (26.5)	568 (23.6)	1010 (41.9)	0 (0)	0 (0)	2408.9
土 磨 5	0 (0)	3.3 (0.7)	0 (0)	460 (99.3)	0 (0)	0 (0)	463.3
土 磨 6	0 (0)	4.3 (0.5)	12.2 (1.5)	102.5 (11.3)	789 (86.9)	0 (0)	908
土 磨 9	0 (0)	0 (0)	0 (0)	71.5 (100)	0 (0)	0 (0)	71.5
土 磨 10	0 (0)	28.3 (3.8)	81.4 (10.8)	505.2 (67.2)	137 (18.2)	0 (0)	751.9
土 磨 14	0.01 (0.01)	13.9 (3.2)	130 (29.8)	293 (67.1)	0 (0)	0 (0)	436.91
上 磨 15	0.1 (0)	0 (0)	0 (0)	51.5 (100)	0 (0)	0 (0)	51.5
上 磨 16	0 (0)	0 (0)	15.5 (1.5)	510 (49.3)	510 (49.3)	0 (0)	1035.5
溝 1	0.1 (0.01)	11.5 (0.7)	88.0 (5.0)	928 (53.1)	730 (41.2)	0 (0)	1747.6
溝 2	941.3 (0.8)	6605.7 (5.6)	18192.7 (15.3)	71603.3 (60.4)	21270.5 (17.9)	0 (0)	118612.6
包 合 圓	0.91 (0.01)	228.3 (2.9)	1435 (18.2)	3965.9 (50.8)	2304.8 (28.0)	0 (0)	7864.91
総 計	1144.5 (0.9)	7544.2 (5.6)	20542.8 (15.3)	79658.6 (59.2)	25631.3 (19.1)	0 (0)	134520.5

表6 石核・剝片出土重量一覧表

(上段 g)
(下段 %)

※ 大きさは、最大長を示すものである。

紡錘車 (挿図18 図版20 (40・41))

石材は緑色片岩である。(41)は穿孔されておらず、両面・側面共に粗い剥離のままである。未製品とみられる。

砥石 (挿図18 図版20 (42))

頁岩製の柱状のものである。両端面を除く四面全面を使用している。

叩き石 (挿図19 図版20 (43~45))

砂岩製(43・44)とサヌカイト製(45)がある。(43)は直径5cmのやや扁平な球形であり、(44)は断面が長径8.5cm、短径5~6cmの梢円形で長さ13cm以上の太い棒状のものである。(43)の敲打痕はやや扁平な球面の周縁を一周し、(44)のそれは先端部と側縁に集まる。(45)は原面で削られた径5~6cmの球状のものであり、いたるところに敲打痕がある。

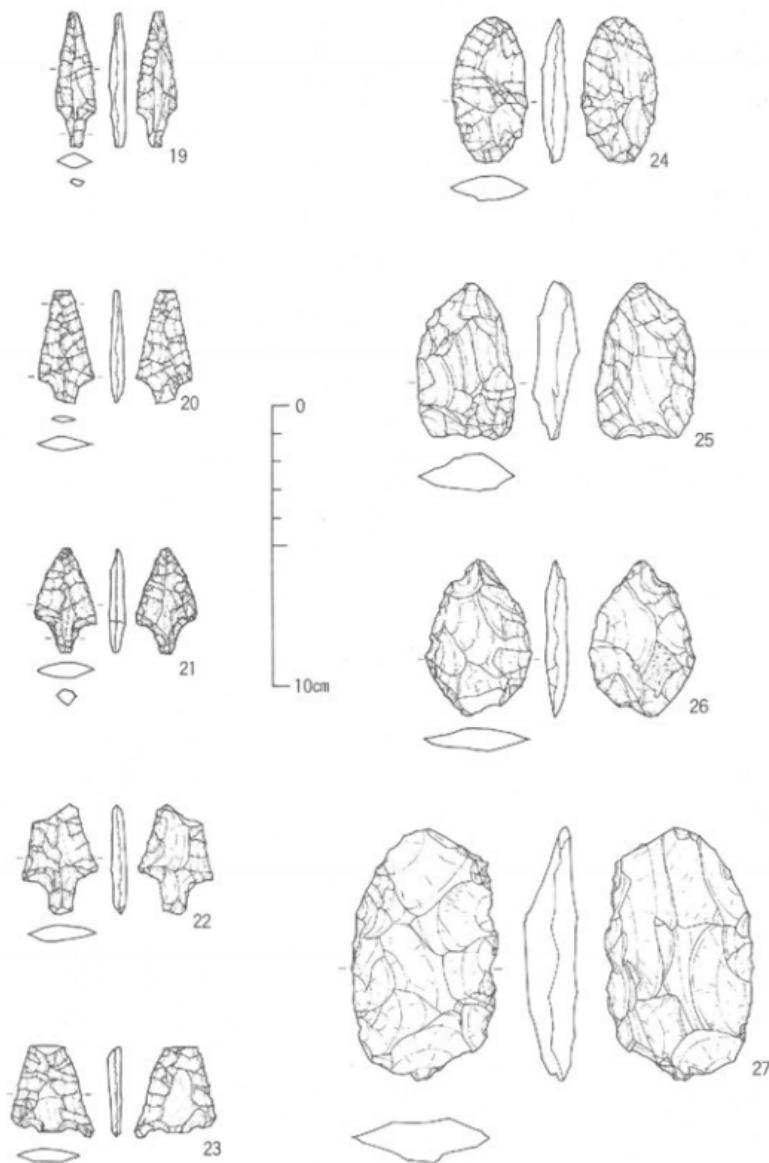
石核・剝片 (挿図20 図版21 (46・47))

量はコンテナバット11箱分にのぼる。多量に出土した溝2の埋土はすべて持ち帰り、2mm方眼のふるいを用い、水洗し、採集した。出土した全ての石核・剝片を大きさで5段階に分け、その量を出土遺物別に表6に示した。比較資料の増加を待ちたい。

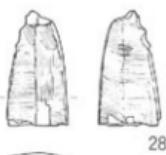
(鈴木紀子)



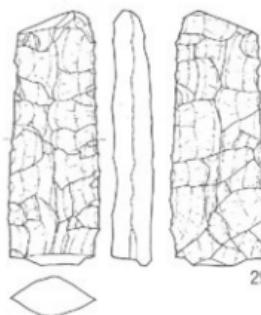
挿図14 石鎌(1)



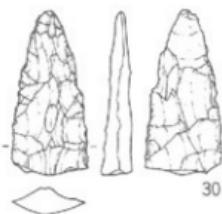
插図15 石鎌(2)・未製品



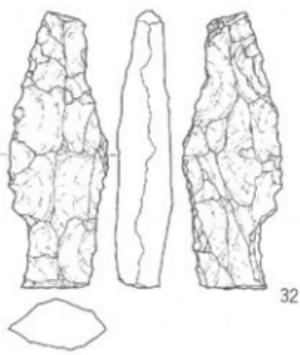
28



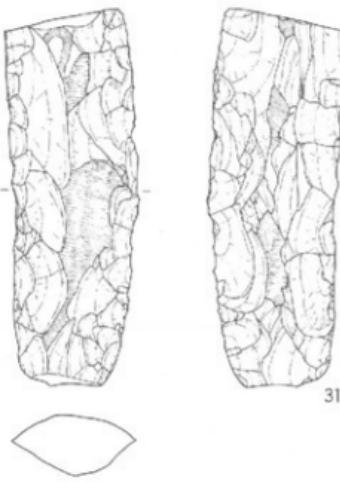
29



30

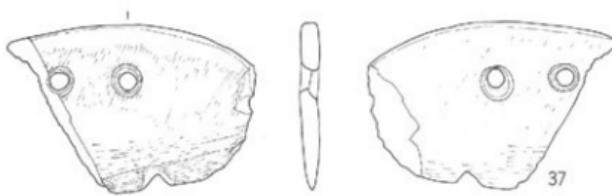
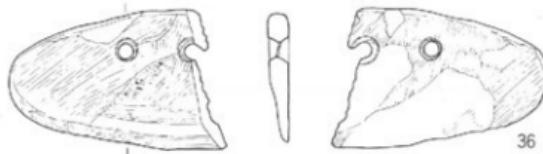
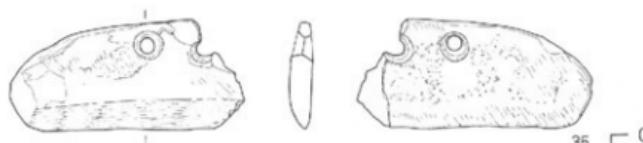
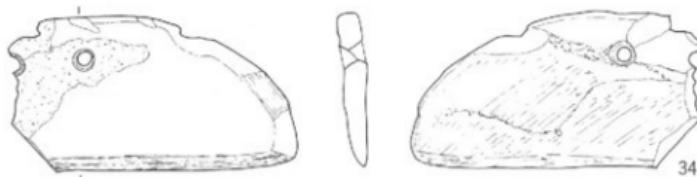
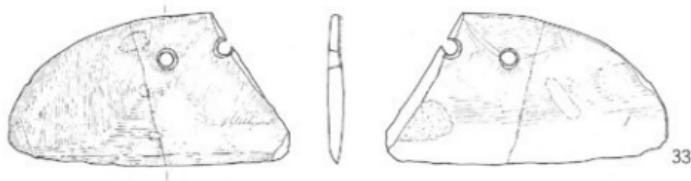


32



31

插図16 石剣・石槍・未製品



0
— 10cm —

插图17 石臼丁



38



39



40



41



42



0

10cm

插図18 石斧・削器・紡錘車・砥石



43



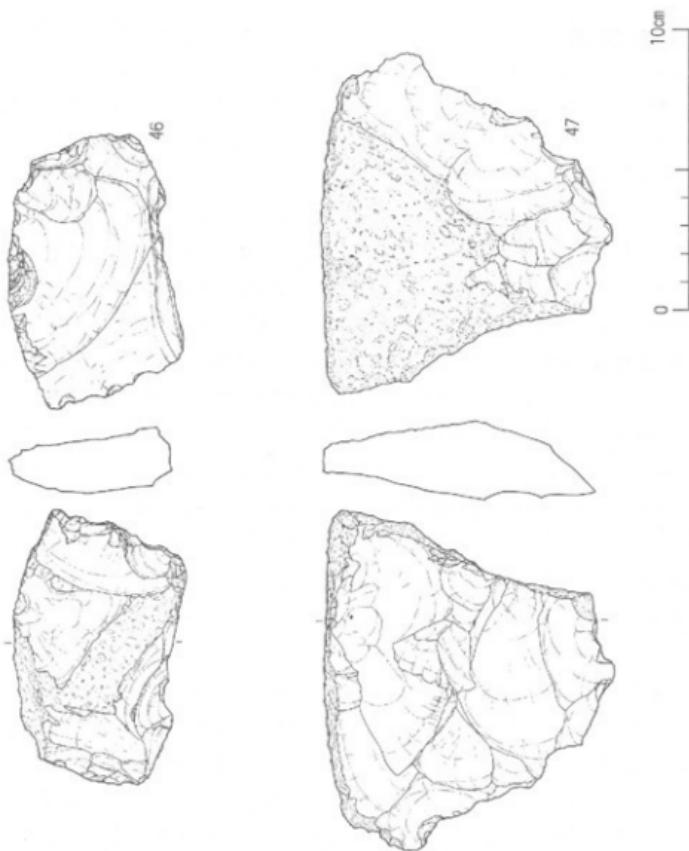
45



44



挿図19 叩き石



掲図20 石核

VI まとめ

既往の調査

喜志遺跡は市内北端の河岸段丘上に位置する弥生時代の集落遺跡として、右川谷では学界に最も早く知られた遺跡の一つである。しかしながら、遺跡の内容については長い間不明であった。1970年代になってようやく機会が得られ、1970年に小規模ながら本市教育委員会による遺跡範囲確認調査を行った。調査の結果、畿内第Ⅲ様式に属する弥生土器と石器等のサヌカイト製打製石器、石庖丁と多量のサヌカイト剝片が出土した。また、溝状遺構とピットを検出し、集落遺構の一角と判断できる貴重な資料を得た。1971年には暗渠埋設工事によって第Ⅱ様式の弥生土器を含むV字溝を検出した。その後、1977年に大阪府教育委員会が遺跡の北東部を占める羽曳野市東阪田で発掘調査を行い、堅穴住居址の存在が明らかとなった。出土した弥生土器は、第Ⅱ・Ⅳ様式に属するものであった。東高野街道の西に接した地点で行われた1979年の大阪府教育委員会の調査では、弥生土器を焼成した窯跡と考えられる焼土壌やサヌカイト剝片が集中して投棄された土壌、井戸、溝といった第Ⅲ様式に属する弥生土器を伴った遺構が検出された。1981年の大阪府教育委員会の調査では、第Ⅱ～Ⅳ様式の弥生土器を伴った堅穴住居址、土壌、溝が検出された。溝からは第Ⅲ様式に属する壺、甕が底部外面に穿孔をうけ、据えられた状態で出土した。これらの土器は供獻土器と呼ばれるものである。1980年と1987年には遺跡の南端部にあたる喜志小学校内において本市教育委員会が調査を行った。いずれも弥生時代の遺構は認められず、奈良時代および室町時代の遺構を検出した。1983年には遺跡の北西部において帝塚山大学が調査を行い、L字形の溝が検出された。この調査にあたった堅川直氏は、この溝を方形周溝墓のものと判断されている。1983年～1987年にかけて、本調査地周辺で本市教育委員会が継続的に行った東高野街道路肩改良工事に伴うトレンチ調査では、第Ⅲ～Ⅴ様式に属する弥生土器を含む溝・ピット・土壌を検出した。ピットの中にはサヌカイト剝片がつまつたものがみられた。また、1984年～1987年にかけて、本調査地の南を東西に走る市道内において都市下水路築造工事が計画され、石川からわずか300m 西方、標高約37m の下位段丘面には沼地があったことが本市教育委員会の調査で示明した。この沼地に堆積した黒褐色粘質土中からは、植物遺体とともに紀文時代後期および晩期の土器が出土した。さらに、中位段丘面東縁部付近では、5世紀代の円筒埴輪片が溝状遺構から出土し、本遺跡内に同時期の古墳が存在したことを裏づける結果となった。本調査地から東高野街道に沿って約30m 南の地点では、幅約3m、深さ約1.8m の断面V字形を呈する東西方向の大溝を検出した。この溝は、喜志遺跡における弥生集落を画する環濠としての性格をもつ遺構と言える。



插図21 喜志遺跡調査地位置図

以上の発掘調査成果から、弥生集落の範囲を推測あるいは限定することが可能である。すなわち、本遺跡の中央を通り東高野街道を南北軸にとると、南限は本調査地の南方約30mとなる。北限については、富山市と羽曳野市の境界付近と考えられる。東限については、中位段丘面の東縁部となり、西限は近鉄長野線付近と考えられる。つまり、南北約450m、東西約300mの範囲に弥生集落が存在したことになる。ただし、本調査地南東方約600mの下位段丘面に、中位段丘西から出土した石器に比べやや古い要素をもつものが表採されていることを指摘しておく。

本調査の成果

本調査地は、喜志遺跡における弥生集落のほぼ南限にあたる。近年における発掘調査の調査面積としては最も広い。調査の結果、溝・土壤・ピットを検出した。遺構の中でも溝が面積の大半を占め、調査地の3分の2におよぶ。これらの溝は、集落の中で一定の区画を示す性格のものと考えられ、おそらく、1971年に本市教育委員会が検出した溝に連結するものであろう。土壤・ピットについては、北端の第1トレンチで最も多くみられる。第1トレンチで検出した土壤4~6・9は、いずれも灰褐色土中に5~40cmの河原石が集積している。東西の一直線上に並び、一定の方向性が見い出せる。同様の遺構は本遺跡内では確認されておらず、今回が初めての発見例である。若干の弥生土器と須恵器片しか出土しておらず、性格等は不明である。

次に、出土遺物についてみることにする。出土した弥生土器は第Ⅲ~V様式に属する。特筆すべき点は、土壤1で出土した弥生土器の6割強が他地域からの搬入品で占めていることである。なかでも、短頸壺(87)は南河内地方では報告されていない器形である。また、構2から出土した台形土器(76)と不明土製品(6)は、本調査によって初めて出土した例である。従来から喜志遺跡では、サヌカイト製打製石器・未製品・サヌカイト剝片が多量に出土することで周知されているが、今回の調査で、初めて溝2の埋土を持ち解り、洗浄を行い細少のサヌカイト剝片の採集に努めた。その結果、長さ1cm未満の剝片が約1000gにもおよび、調査地周辺で確実に石器を作っていたことを裏付ける資料となった。今後、こうした石器製作過程に伴う正確な資料収集とそのデーター分析が必要となろう。

(中辻亘・鈴木紀子・田川友美)

○参考資料

- 柳原木治・島山貞彦「河内西高安及び喜志石器時代遺跡調査」(京都帝國大学考古学研究報告第2冊、1917年)
渡辺昌宏・芝野圭之助「喜志遺跡発掘調査概要」大阪府教育委員会(1978年)
尾上実「喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要」大阪教育委員会(1980年)
尾上実・今村道雄「喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要」大阪府教育委員会(1981年)
中辻亘・忍義「喜志遺跡発掘調査概要I」富田林市教育委員会(1981年)
玉井功・今村道雄・山本彰「喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要V」大阪府教育委員会(1982年)
玉井功・今村道雄・小林義孝「喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要VI」大阪府教育委員会(1983年)
小林義孝「喜志遺跡調査概要」(大阪府文化財調査概要)大阪教育委員会(1983年)
小林義孝「喜志遺跡発掘調査概要」(大阪府文化財調査概要)大阪府教育委員会(1984年)
小林義孝「喜志遺跡発掘調査概要」(大阪府文化財調査概要)大阪府教育委員会(1985年)
井上廣・北野耕平・他「富田林市史」第1巻古代編(1985年)
小林義孝「喜志遺跡の調査」(錦織遺跡発掘調査概要)大阪府教育委員会(1986年)

付 遺 物 觀 察 表

器種	博物館番号 図版番号	遺構名 出土層位	法量(cm)	特			備考
				○形状	○技法	○文様	
広口壺形土器A	7-1	溝 2	口径 27.8 器高 (5.2)	○口縁部のみ残存。 外反して大きく聞く口縁部。口縁端部はわずかに下方に屈曲する。 ○頸部外面上半ヨコナデ。他は剥離と磨滅のため判別不能。 ○口縁部外面、斜線文2条、一部斜子文に近いところがある。			色調 内 明茶褐色 外 明茶褐色 断 明茶褐色
広口壺形土器A	7-2	溝 2	口径 26.5 器高 (12.7)	○口縁部のみ残存。 筒状の鋲孔から約1cmに広がり水平に曲がる口縁部。口縁端部はわずかに上下に屈曲する。 ○頸部外面、縦方向の崩れ目。他は剥離のため調査不能。 ○口縁部外面、斜線波状文(原体4本)。			色調 内 茶褐色 外 墓褐色 断 黒色
広口壺形土器A	7-3	溝 2	口径 22.4 器高 (11.35)	○口縁部のみ残存。 倒れに外反し、さらに曲折しやや崩下させる口縁部。口縁端部は面をもつ。 ○剥離と磨滅のため調査不能。			胎土 石英を多量に含む。 金芸母、くさり繩は極少量含む。角閃石を多少含む。
広口壺形土器A	7-4	溝 2	口径 16.2 器高 (3.9)	○口縁部のみ残存。 短かい口縁部からなだらかに外反する口縁部をもつ。口縁部は、わずかに上方に微屈する。 ○口縁部内外面、ヨコナデ。 ○頸部に斜線波状文(原体14本以上)が1条めぐる。			色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 暗茶褐色
広口壺形土器A	7-5	溝 2	口径 21.9 器高 (4.0)	○口縁部のみ残存。 大きく外反する口縁部。口縁端部は上方に屈曲する。 ○口縁部内外面、ヨコナデ。 ○口縁部外面、斜線文。口縁部内面列点文(原体13本)。			胎土 石英を多量に、くさり繩は極少量含む。 牛乳西楚床
広口壺形土器A	7-6	溝 2	口径 22.05 器高 (6.4)	○口縁部のみ残存。 外反して大きく聞く口縁部。口縁端部は上方に屈曲する。 ○口縁部内外、外而、体部内面、ヨコナデ、体部外面、ナデ。 ○口縁部外面、斜線文(原体14本)、体部外面、撇状文(原体2本以上)。			色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 暗茶褐色
広口壺形土器A	7-7 13-7	溝 2	口径 17.0 器高 (13.55)	○口縁部、肩部残存。 短かい頸部からなだらかに、外反する口縁部。口縁端部は上方に屈曲する。 ○表面磨滅のため調査不能。 ○口縁部外面、幾矢文らしきものがある。 ○口縁部内外、列点文らしきものがある。肩部外面、直線文(原体9本)、波状文(原体9本)			色調 内 茶褐色 外 暗茶褐色 断 暗茶褐色

() は残存値

器種	拂岡番号 内装番号	通 横 名 出土箇位	法尺(cm)	特徴			備 考	
				○形態	○技法	○文様		
広口壺形土器A	7-8	溝 2	口径 17.45 素高 (8.9)	○口縁部のみ残存。 外反して大きく聞く口縁部。口縁端部は下方に拡張する。 ○磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側、刺突文、刺突文の下に文様の痕跡がある。口縁部内側、円形浮文。頸部外壁、墨文 (原体7本以上)。			色調 内 黄茶褐色 外 黄茶褐色 断 斑褐色	胎土 角閃石、石英を多量に含む。 牛軛内側底
広口壺形土器A	7-9	溝 2	口径 14.5 素高 (4.7)	○口縁部のみ残存。 頸部からなだらかに外反する口縁部。口縁端部は下方に拡張する。 ○刺離と磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側、施文 (原体11本)、 口縁部下端、刺み目。			色調 内 黄茶色 外 黄茶色 断 黄茶色	胎土、粗 石英を多量に、くさり波を極少量含む。 口縁部外側に一部黒斑が認められる。
広口壺形土器A	7-10	溝 2	口径 22.2 素高 (6.4)	○口縁部のみ残存。 頸部からなだらかに外反する口縁部。口縁端部は下方に拡張する。 ○刺離と磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側、施文 (原体10本以上)、 口縁部下端、刺み目。			色調 内 明黄茶色 外 明黄茶色 断 明黄茶色	胎土、粗 石英を多量に、くさり波を少量含む。 口縁部外側に一部黒斑が認められる。
広口壺形土器A	7-11	溝 2	口径 14.5 素高 (5.6)	○口縁部のみ残存。 頸部からなだらかに外反する口縁部。口縁端部は下方方に拡張する。 ○磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側、施文 (原体9本)。			色調 内 黄茶色 外 黄茶褐色 断 黄茶褐色	胎土 やや粗 石英、角閃石、くさり波を含む。 生駒西麓産
広口壺形土器A	7-12	溝 2	口径 19.15 素高 (4.9)	○口縁部のみ残存。 頸部からなだらかに外反する口縁部。口縁端部は下方方に拡張する。 ○磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側、施文 (原体おそらく10本)、 頸部外側、横筋の文様の痕跡がある。			色調 内 黄茶褐色 外 黄茶褐色 断 黄茶褐色	胎土、粗 角閃石を多量に、石英金雲母を含む。 割部外側 (口縁部のつけね) に少量であるが炭化物質が付着している。生駒西麓産
広口壺形土器A	7-13	溝 2	口径 20.25 素高 (9.2)	○口縁部のみ残存。 頸部からなだらかに外反する口縁部。口縁端部は下方方に拡張する。 ○磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側、施文 (原体10本以上)、 口縁部外側、施文 (原体13本、不明) 2条。			色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 暗茶褐色	胎土 粗 角閃石、石英を多量に含む。 くさり波を極少量含む。 生駒西麓産
広口壺形土器A	7-14 13-14	溝 2	口径 8.95 素高 18.9 底径 5.1	○頸部から肩部を欠損。 窓状の痕跡から外反する口縁部。口縁部分はすこし下方に拡張する。底部は平底。 ○口縁部外側ヨコナメ。体部外側大手横刀向のヘルミガキ。体部内側下半削毛 (4木/cm)、 内底面、指頭研磨が観る。他は磨滅のため調整不明。			色調 内 暗茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色	胎土、粗 石英、角閃石を多量に含む。 体部上半外側、口縁

() は残存部

器種	振岡番号 図版番号	溝 横 名 山土層位	法線(cm)	特 ○形態 ○接法 ○文様	微 ○表面 ○色調 ○文様	備 考
				○口縁部外面、崩伏状があったと思われる。体部外面、崩伏文(原体7本)1条、櫛状(縦文)(原体11本)6条。	内面に黒斑を認められる。 生駒西麓産	
広口壺形土器B	7 - 15	溝 2	口径 器高 14.7 (5.6)	○口縁部のみ残存。 底部からなだらかに外反した後、上方に大きく下方にわずかに傾斜する口縁部。 口縁端部は内側する。 ○口部内面、指跡圧痕が残る。頸部外面ナゲトに指跡圧痕が残る。口縁部外面剥離と磨滅のため調整不明。 ○口縁部外底、崩伏文(原体7~8本)、剣部外向横幅直線文(原体7~8本)。	内 外 断 茶褐色 新茶褐色	色調 内 新茶褐色 外 新茶褐色 断 新茶褐色 胎土 粗 角閃石、石英を多量に含む。 生駒西麓産
広口壺形土器B	7 - 16 13 - 16	溝 2	口径 器高 14.6 (10.8)	○口縁部のみ残存。 外反した後、上方に大きく下方にわずかに傾斜する口縁部。口縁端部は内側する。太い鈍状の痕跡。 ○口縁端向内面指跡圧痕。頸部内面指跡圧痕は磨滅のため調整不明。 ○口縁部外底、崩伏文が2条あったと思われる。頸部外面、櫛状直線文3条(原体12本)。	内 外 断 茶褐色 茶褐色	色調 内 新茶褐色 外 新茶褐色 断 茶褐色 胎土 粗 石英、角閃石を多量に、金雲母を含む。 生駒西麓産
広口壺形土器C	8 - 17	溝 2	口径 器高 15.3 (7.55)	○口縁部のみ残存。 短い鈍部に外反する口縁部。口縁端部は、ほとんど剥離しない。 ○磨滅が著しいため調整不明。	内 外 断 明茶色 明茶色 茶褐色	色調 内 明茶黄色 外 明茶色 断 茶褐色 胎土 粗 石英を多量に、角閃石、金雲母を含む。 生駒西麓産
広口壺形土器C	8 - 18	溝 2	口径 器高 19.5 (6.5)	○口縁部のみ残存。 短い鈍部に外反する口縁部。口縁端部は、ほとんど剥離しない。 ○磨滅が著しいため調整不明。	内 外 断 明茶黄色 乳白色 乳白色	色調 内 明茶黄色 外 乳白色 断 乳白色 胎土 粗 石英を多量にくさり剥を少量含む。
広口壺形土器C	8 - 19	溝 2	口径 腹径 底径 器高 11.3 17.9 5.2 6.8	○口縁部、体部の一部を欠損。 太く短い底窪から外反する口縁部。口縁部は丸くおさまる。体部は、絞長。底部は平底。 ○全体に磨滅、剥離が著しい。	内 外 断 乳白色 黄褐色	色調 内 乳白色 外 黄褐色 胎土 粗 石英、金雲母を含む
広口壺形土器C	8 - 20 13 - 20	溝 2	口径 腹径 底径 器高 9.9 16.35 5.2 23.3	○体部一部欠損。 短い鈍部から外反する口縁部。口縁端部は下外方に傾斜する。体部は丸みをもつ。底部はわずかに上げ底。 ○全体に磨滅しているため調整不良。	内 外 断 茶褐色 茶褐色	色調 内 茶褐色 外 茶褐色 胎土 やや粗 石英、角閃石を含む 体部下半外面に黒斑を認める。
広口壺形土器C	8 - 21	溝 2	口径 器高 19.0 (5.65)	○口縁部のみ残存。 ほぼ水平に附き端部で上・下に肥厚(する)する。 ○口縁部外底、ヨコナギ。体部外面、縦方向の刷毛目。他は剥離と磨滅のため、調整不良。	内 外 断 淡茶褐色 乳白色 茶褐色	色調 内 淡茶褐色 外 乳白色 断 茶褐色 胎土 やや粗 石英を多量に、くさり剥を少量含む

() は残存値

岩種	桶岡番号 採取番号	標 標名 出上層位	法量(cm)	特 C形態 ○口部 ○底部 ○文様	備 考
広、 口 縫 形 土 器 C	8 - 22	溝 2	口部 高さ (5.5)	○口部のみ残存。 ほぼ水平に開き底部で上・下に肥厚する。 ○表面、剥離を増減のため調整不明。	色調 内 明褐色 外 淡褐色 断 斜褐色 胎土 良 石英、くさり塵を含む。
広、 口 縫 形 土 器 C	8 - 23 13 - 23	溝 2	口部 底径 高さ (7.4) (33.1)	○口縁部、体部の一割欠損。 太く短い頸部に外反する口縁部。口縁端部は、わずかに上方に弧曲する。体部は短長 底部は、わずかに上げ底。 ○全体に剥離、増減が甚しきため調整不明。	色調 内 淡灰褐色 外 淡褐色 胎土 良 石英、くさり塵を含む。底部外面から、 体部外向下方にかけて、 底部外向中位から下方にかけて、黒 斑が認められる。
壺 形 土 器	8 - 21 13 - 24	溝 2	底径 腹深 高さ (5.2) (15.4)	○口部底は欠損。 球形の体部。底部は平底。 ○体部外向下方半、ナデ、体部内向下方半、胎毛 目 (6本/cm) 他は、剥離、増減のため、 調整不明。 ○体部上半、横擋直線文 3条 (原体6本)。	色調 内 淡黃褐色 外 淡黃褐色 胎土 良 石英、くさり塵を含む。
高 杯 形 土 器 A	9 - 25	溝 2	口部 高さ (4.3)	○杯底部、脚部欠損。 内壁突出部に立ちあがる凹口。口縁部は上端 に面をもつ。 ○剥離と増減のため、調整不明。 ○口縲部外面、船底波状文 (原体おそらく6 本) 1条めぐる。	色調 内 暗褐色 外 上半 暗茶褐色 下半 略赤褐色 胎土 粗 石英を多量に含み くさり塵を極少量含む。
高 杯 形 土 器 A	9 - 26	溝 2	口部 高さ (6.6)	○脚部欠損。 殻をもって立ち上がる口縁部。 ○口縲部内面、ヨコナデ。杯部内面、縱方向 のヘラミガキ、杯部内底面、ナデ。他は、 増減のため調整不明。 ○口縲部外面、斜線文2条。口縲内側面刻み 目。	色調 内 明茶褐色 外 明茶褐色 断 明茶褐色 胎土 粗 石英、角閃石を多量 に、くさり塵、金雲 母を含む。 半胸内壁部
高 杯 形 土 器 B	9 - 27	溝 2	口部 高さ (3.05)	○杯部上半残存。 水平に広がる口縲部。口縲端部は、下方に わずかに肥厚する。水平口縲の内側に、一本の凸筋をめぐらす。 ○増減のため調整不明。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 明茶褐色 胎土 粗 石英、角閃石を多量 に、内外白共、炭化物 質が付着。 半胸内壁部
高 杯 形 土 器	9 - 28	溝 2	脚部 高さ (6.6)	○脚部のみ残存。 中空で脚部に向って、なだらかに広がる脚 柱部。脚部は、上方に拡張する。 ○脚部外向、ヨコナデ。船底上端に疣痕が 残る。 脚柱部外向、縱方向のヘラミガキ。脚柱部	色調 内 暗褐色 内 暗褐色 断 暗茶褐色 胎土 精良 石英を含む。

() は既存値

器種	新潟番号 回収番号	遺構名	法量(cm)	特 ○形態 ○特徴 ○文様	備 考
		出土層位		内面上半、絞り口、下部ナデ。	沿壁部外面と内面に黒斑が認められる。
高 杯 形 土 器	9-29	溝 2	縦径 器高 12.9 (10.55)	○縦筋のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚部は上方に膨らむ。 ○脚柱部内面、絞り口。他は剥離と磨滅のため調査不明。	色調 内 明赤茶色 外 暗赤茶色 断 淡黄茶色 筋土 良 石英を多量に、くさり塵は、焼少字含む。 沿壁部外面と内面に黒斑が認められる。
高 杯 形 土 器	9-30	溝 2	縦径 器高 15.55 (2.9)	○縦筋のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚部は上方に膨張する。 ○磨滅のため調査不明。	色調 内 暗茶褐色 外 暗褐色 断 暗褐色 筋土 良 角閃石を多く、石英 くさり塵を含む。 生駒西鉄産
高 杯 形 土 器	9-31	溝 2	縦径 器高 13.35 (1.9)	○縦筋のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚部は上方に膨張する。 ○全体に磨滅のため調査不明。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 暗茶褐色 筋土 良 角閃石、石英を多量に含む。 前部外面に黒斑あり。 生駒西鉄産
高 杯 形 土 器	9-32	溝 2	器高 (8.05)	○脚柱部のみ残存。 内側する脚部からやかに外反する中空の脚柱部。3方向に円孔透し。きし込み。 ○脚柱部外面、ナデ。脚柱内面、刷毛目。脚柱部外面、ヘラミザキ、一部上からナデ。脚柱部内面、絞り口、下平、ナデ。	色調 内 明赤茶色 外 暗赤茶色 断 暗赤茶色 筋土 精良 くさり塵、石英を含む。
高 杯 形 土 器	9-33 11-33	溝 2	縦径 器高 13.0 (14.85)	○脚部のみ残存。 中央の柱状部から斜めに広がる脚台。 脚部は、上・下に膨張する。 ○脚柱部外面、脚柱内のヘラミザキ、脚部内面、ヨコナデによる一部凸凹感がある。 他は剥離と磨滅のため調査不明。	色調 内 明赤褐色 外 淡黄褐色 断 淡茶褐色 筋土 やや粗 石英、金星母、くさり塵を含む。
高 杯 形 土 器	9-34	溝 2	縦径 器高 14.1 (4.2)	○脚部のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚部は上方へ立ちあがる。 ○脚部外向、竪方向のヘラミザキ、外向下平ヘラミザキの上から、ヨコナデ。断端部外面ヨコナデ。他は、剥離と磨滅のため、調査不明。	色調 内 黄褐色 外 暗褐色 断 黄褐色 筋土 良 石英を含む。くさり塵も少量含む。 脚部外端部、内面1.5cmの部分に黒斑が認められる。
高 杯 形 土 器	9-35 14-35	溝 2	縦径 器高 13.4 (4.45)	○脚部のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚部は上方へ立ちあがり、下方へわずかに膨張する。	色調 内 淡赤茶色 外 淡褐色 断 淡褐色

() は残存値

器種	検出番号 登録番号	遺構名 出土層位	法量(cm)	特徴			備考
				○形態	○技法	○文様	
				○縦部外向、縱方向のヘラミガキ。被端部、ヨコナデ。他は表面削離と磨滅のため調整不明。			胎土 稲良 石英、金雲母を含む 被部外面、外端面に一部黒斑が認められる。
高 杯 形 土 器	9-36	溝 2	縦径 器高 13.9 (3.6)	○被部のみ残存。 斜めに広がる被部。被端部は上方へ立ちあがり、下方へわずかに肥厚する。 ○被部外面、縱方向のヘラミガキ、他は削離と磨滅のため調整不明。 ○被部外面に、沈線が1条めぐる			色調 内 基褐色 外 茶褐色 断 褐褐色
							胎土 粗 石英、くさり砂を多量に、金雲母は極少量含む。 被部外面、外端面に一部黒斑が認められる。
高 杯 形 土 器	9-37	溝 2	縦径 器高 14.7 (3.6)	○被部のみ残存。 斜めに広がる被部。被端部は上・下に拡張する。 ○被部外面、ヨコナデ。被部内面、磨滅のため調整不明。 ○被部外面、沈線が1条めぐる。			色調 内 乳白色 外 明素黄色 断 黄褐色
							胎土 粗 石英を多量に、くさり砂を少許含む。 被部に黒斑が認められる。
鉢 形 土 器 A	9-38	溝 2	口径 底径 8.4 3.25	○底部欠損。直口。深い碗状の鉢部。 底部は平底。 ○体部外側、下半、ヘラケズリ(下→上)。体部内面上半、指跡圧痕が残る。外底面、ナデ、他は削離と磨滅のため調整不明。 ○口縁部外向、円線文2条。			色調 内 暗褐色 外 黄褐色 断 黄褐色
							胎土 やや粗 石英を含む。くさり砂は極少量含む。
鉢 形 土 器	9-39 14-39	溝 2	底径 器高 3.4 (6.3)	○15號部欠損。 体部は振らない。底部はわずかに上げ底。 ○表面、磨滅のため調整不明。			色調 内 黄褐色 外 暗灰色
							胎土 やや粗 小石、石英を多量に含む。内底面に、もみ痕が認められる。
鉢 形 土 器 A	9-40	溝 2	口径 器高 12.8 (4.2)	○底部のみ欠損。 丸みをもって立ちあがる口縁部。 ○磨滅のため、調整不明。 ○口縁部外側、糸点文(原休不明)。			色調 内 暗茶褐色 外 黒色 (原灰部分残存) 断 暗系褐色
							胎土 やや粗 角閃石、石英を多量に含む。 牛跡生蠣座
鉢 形 土 器 B	9-41	溝 2	口径 器高 15.75 (4.2)	○口縁部、体部のみ残存。 大きく開く口縁部。口縁端部は、面をもつて体部は横状。 ○磨滅のため調整不明。			色調 内 黑色 外 黑紫色と 茶色 断 紫茶色
							胎土 粗 石英を多量に、くさり砂を極少量含む。

() は残存値

器種	横岡番号 実版番号	造 構 名 出土層位	法量(cm)	特 ○形態 ○技法	鑑 ○文様	備 考
鉢 形 上 器 B	9 - 42	溝 2	口径 14.4 器高 (6.7)	○口縁部、体部残存。 内側する段状の口縁部。体部はやや張り、 腹部に棱をもつ。 ○剣離と磨減のため、調整不明。 ○体部外面上半、瘤状文(原体7本) 2条、 辰形文(原体7本) 1条。		色調 内 暗赤褐色 外 暗青褐色 断 暗茶褐色 胎土 粗 角閃石を多量に石灰を含む。 生駒西鉱床
吉 付 鉢 形 土 器	9 - 43	溝 2	口径 16.0 器高 (9.6)	○脚部欠損。 棱をもって立ち上がる口縁部。内側する杯 底部分から、ゆるやかに広がる脚柱部。 脚柱部には、内孔。円筒充填。 ○口縁部内面、外面、ヨコナデ。杯部内面、 不定方向のヘラミガキ。杯部外面、横方向 のヘラミガキ、一部ヘラミガキの上から、 ヘラケズリ。脚部内面、ナデ。脚部外面、 ヘラケズリ(下→上)。 ○口縁部外面凹線文2条めぐる。脚柱部外向 竹管文。		色調 内 明茶黃色 外 淡茶黃色 断 灰褐色 胎土 良 石英を多量に、くさ り縞を少數含む。
鉢 形 土 器 C	9 - 44	溝 2	口径 29.55 器高 (9.4)	○口縁部、体部上半残存。 矧く外反する口縁部。口縁端部はやや下外 方に大きく拡張する。体部は丸みをもつ。 ○磨減が著しいため、調整不明。 ○口縁部外面、瘤状文(原体不明)、体部外面 瘤状文(原体10本) 3条。		色調 内 黄灰黒色 外 黄灰色 断 黑灰色 胎土 やや粗 石英を多量に含む。
脚 台	9 - 45	溝 2	脚径 5.2 器高 (1.95)	○脚部のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚端部は丸くおさまる ○全体に磨減しているが、内外面に、指頭压 痕が残る。		色調 内 灰黄色 外 淡黄灰色 胎土 やや粗 石英を含む。
脚 台	9 - 46	溝 2	脚径 7.1 器高 (6.7)	○脚部のみ残存。 脚柱部は、ゆるやかにカーブした後、直線 的に広がる。脚端部は、ふんばる。 ○脚柱部内面、絞り目。他は、剣離と磨減の ため調整不明。 ○脚部外面、凹線文3条めぐる。		色調 内 乳茶色 外 乳茶色 断 灰色 胎土 粗 石英を多量に、くさ り縞を極少量含む。 脚部に斑状が認められ る。
脚 台	9 - 47 14 - 47	溝 2	脚径 7.8 器高 (6.8)	○脚部のみ残存。 脚柱部は、ゆるやかにカーブした後、直線 的に広がる。脚端部は、ふんばる。 ○脚柱部内面、絞り目。他は、剣離と磨減の ため調整不明。 ○脚部外面、凹線文2条めぐる。		色調 内 黄褐色 外 橙色 断 灰褐色 胎土 良 石英、くさり縞、 金雲母を含む。
鉢 形 上 器	9 - 48	溝 2	脚径 13.6 器高 (2.6)	○脚部のみ残存。 斜めに広がる脚部。脚端部は、上方に膨張 する。 ○脚部外面、ヨコナデ。他は、磨減のため調 整不明。 ○脚部外面、竹管文。 脚端部、竹管文。脚部上端、刺み目。		色調 内 紫褐色 外 紫褐色 断 暗茶褐色 胎土 粗 石英を多量に、 くさり縞を極少量含 む。

() は既存値

器種	場所番号 採取番号	施 様 名 出上層位	法量(cm)	特 ○形態 ○技法 ○文様	備 考
鉢 形 土 器	9 - 49 14 - 49	溝 2	縦径 11.3 基高 (8.3)	○腹部のみ残存。 斜方向に山根的にのびる脚柱面。締縫部は 糞をもつ。脚柱部に2段、9方穴に円孔が 穿たれている。内面に穿孔跡の粘土のたみ りがある。 ○刺繡と磨滅のため調整不明。	色調 内 淡茶褐色 外 一部水茶色 断 淡黃褐色 淡茶褐色
台付 舞 獣 形 土 器	9 - 50 14 - 50	溝 2	口径 9.95 縦径 10.1 基高 15.1	○口縁部、体部の一部欠損。 「く」字に外反する口縁部。口縁端部は、わ ずかに斜斜する。脚柱部は、下位で張る。 脚柱部は、中央のもの。試器は、斜方向に 広がる。締縫部は、上方に拡張する。口縁 底下に2孔1組の円孔が2組穿たれている。 ○全体に磨滅のため調整不明。 ○口縁部外側に刷毛目、体部外側に獣狀文の 痕跡がある。	色調 内 淡茶褐色 外 淡茶褐色 胎土 粗 石英を多量に、 くさり織を極少量含む。 締縫部、脚部内面に、 麻縫が認められる。
無頸 壺 形 土 器 B	9 - 51	溝 2	口径 12.25 基高 (2.7)	○口縁部、体部上半残存。 短く水平に曲る口縁部。口縁端部は、丸く おさまる。口縁下に円孔、1孔のみ残存。 ○口縁部外面、ヨコナデ。他は磨滅のため調 整不明。 ○体部外面、獣状文(原体7本)、扇形文(原 体7本)、簾状文(原体7本)。	色調 内 乳茶色 外 黄茶色と赤 黄茶色 断 黄茶色と赤 黄茶色
無頸 壺 形 土 器 B	9 - 52	溝 2	口径 15.0 基高 (4.0)	○口縁部、体部上半のみ残存。 短かく外反する口縁部。口縁端部は面をも つ。 体部は張る。 ○口縫部、内面、外面、ヨコナデ。 他は磨滅のため、調整不明。	色調 内 明茶褐色 外 明茶褐色 断 明茶褐色 胎土 やや粗 角閃石を多量に 石英を含む。 生駒西鉱産
壺 形 土 器	10 - 53 14 - 53	溝 2	口径 11.2 つまみ径 2.6 基高 3.85	○大きな笠形。口縁部はわずかに広がる。口 縁端部は丸くおさまる。2個1組の糞孔。 ○内外面とも磨滅のため調整不明。	色調 内 瓶形褐色 外 晴茶褐色 断 暗茶褐色 胎土 やや粗 石英、角閃石を含む 生駒西鉱産
細 彫 紋 形 土 器	10 - 54 15 - 54	溝 2	基高 (20.5)	○頸部、体部上半残存。 筒状の頭部、体部は張りが少なく継長。 ○全体に磨滅、刺繡が著しいため、調整不明。	色調 内 灰黃白色 外 黄灰白色 胎土 やや粗 小石、石英、くさり 織を含む。
細 彫 紋 形 土 器	10 - 55 15 - 55	溝 2	口径 6.9 基高 (17.5)	○口縁部、脚柱部残存。底部片、体部片らし きものもある。筒状の頭部にやや内斂する 口縁部。上端、丸みをもつ。 肩部はなだらかに広がる。	色調 内 茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色

() は現存値

器種	拂図番号 岡坂番号	構造名 出土場所	法尺(cm)	特 ○形態 ○技術 ○文様	備 考
				<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部内面、ナデ、一部縦方向のヘラミガキらしきものがある。耳部、ナデ下に指頭止め残る。他は彫刻のため、調整不明。 ○口縁部、縦状文9条(原体9本)、口縁端部直線文3条(原体9本)。 	<p>胎土、粗石英、角閃石を多量に含む。</p> <p>生陶内鍛室。</p>
甕形土器	10-56	溝 2	口径 10.8 器高 (4.9)	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部、体部上半残存。くの字に外反する口縁部。口縁端部は凸をもつ。体部は張らない。 ○口縁部外面ヨコナデ、体部外面、縦方向のヘラケズリ(下→上) ○口縁部下端に刺み目。 	<p>色調 内 明褐色 外 濃褐色 断 細褐色</p> <p>胎土、粗石英を多量に、くさり織を極少量含む。口縁部外面に煤が少し付着している。</p>
甕形土器	10-57	溝 2	口径 12.05 器高 (5.0)	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部、体部上半残存。くの字に外反する口縁部。口縁端部は丸味をもつ。体部は張る。 ○口縁部外凸、ヨコナデ。体部外面、縦方向の刷毛目。他は剥離と彫磨のため調査不明。 	<p>色調 内 明黄茶色 外 明黃茶色 断 明黄茶色</p> <p>胎土 良石英を含む。くさり織を極少量含む。</p>
甕形土器	10-58	溝 2	口径 13.3 器高 (4.5)	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部、体部上半のみ残存。くの字に外反する口縁部。口縁端部は凸をもつ。体部は張らない。 ○口縁部外凸、ヨコナデ。体部外面ナデ。体部内面、不定方向の刷毛目。他は剥離のため調査不明。 	<p>色調 内 褐色 外 茶褐色 断 茶黄色</p> <p>胎土 やや粗石英を多量に含む。頭部から体部にかけて一部焼化物質が付着。</p>
甕形土器	10-59	溝 2	口径 13.55 器高 (5.3)	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部、体部上半のみ残存。くの字に外反する口縁部。口縁端部は丸味をもつ。体部は張らない。 ○口縁部内面、外面、ヨコナデ。頭部内面、ナデ下に指頭止め、体部内面、横方向のヘラミガキ、一部縦方向のヘラミガキ下に、縦方向のヘラミガキ。 	<p>色調 内 茶褐色 外 暗茶褐色 断 茶褐色</p> <p>胎土 やや粗角閃石 石英を多量に含む。</p> <p>牛糞西鍛室</p>
甕形土器	10-60	溝 2	口径 12.0 器高 (5.35)	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部、体部上半のみ残存。くの字に外反する口縁部。口縁端部は丸味をもつ。 ○剥離と彫磨のため調査不明。体部上部に粘土の焼き目がある。 	<p>色調 内 深茶褐色 外 暗赤褐色 断 黑灰色</p> <p>胎土 粗角閃石 石英を多量に含む。</p> <p>牛糞西鍛室</p>
甕形土器	10-61	溝 2	口径 10.2 底径 10.7 高さ 4.3 器高 12.0	<ul style="list-style-type: none"> ○口縁部、体部の一部欠損。くの字に外反する口縁部。口縁端部は丸い体部はあまり張り出さず、なだらかなカーブをもつ。底部はわずかに上げ底。 ○体部内面上に半指頭仕組。他は彫刻のため調査不明。 	<p>色調 内 茶褐色 外 墓茶褐色 断 暗茶褐色</p> <p>胎土 良石英、角閃石を多量に含む。牛糞西鍛室</p>

器種	神宮番号 採取番号	重 横 名 出土所位	法量(cm)	特			備 考
				○形態	○性状	○文様	
甕 形 土 器	10-62	溝 2	口径 12.9 器高 (5.55)	○口縁部、体部上半残存。 くの字に外反する口縁部。口縁部は面をもつ。 ○刺離と磨滅のため調整不明。			色調 内 不明(模のため) 外 黄褐色 断 青褐色
							胎土 粗 石英を多量に、金雲母、くさり鐵を極少配合。 内面は全体に炭化物跡が付着している。
甕 形 七 器	10-63	溝 2	口径 18.3 器高 (12.4)	○口縁部、体部残存。 くの字に外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 体部は張らない。口縁部に最大径をもつ。 ○口縁内外面、体部内面、刺離と磨滅のため調整不明。 体部外面、縦方向のハラケズリ、大半は上→下方向に削っている。一部下→上方向に削っている。			色調 内 喷褐色 外 茶褐色 断 茶褐色
							胎土 粗 石英を多量に含む。 くさり鐵を極少配合する。
甕 形 土 器	10-64	溝 2	口径 16.8 器高 6.5	○体部の一部欠損。 くの字に外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 体部はゆるやかなカーブを描いて張る。 底部は平底。 ○口縁部内外面、ヨコナデ。体部外面、縦方向のハラミガキ、外底面、ナデ、体部内面指頭圧痕、他は磨滅のため、調整不明。			色調 内 茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色
							胎土 石英、角閃石を含む。 外底面、体部外面下半、体部内面下半に黒斑を認める。 牛軛西麓産
甕 形 十 器	10-65	溝 2	口径 27.0 器高 (6.0)	○口縁部、体部上半残存。 くの字に外反する。口縁端部は上方に抵張する。 ○全体に磨滅のため調整不明。			色調 内 茶褐色 外 黑褐色 断 黑褐色
							胎土 粗 石英を多量に含む。 くさり鐵を少量含む。 口縁部から体部にかけて黒斑が認められる。
甕 形 土 器	10-66	溝 2	口径 30.85 器高 (7.2)	○口縁部、体部上半残存。 内面に丸味をもって外反する口縁部。 口縁端部は下方に抵張する。 ○刺離と磨滅のため調整不明。 ○口縁部外面、刺突文。			色調 内 喷褐色 外 喷褐色 断 黑褐色
							胎土 粗 角閃石、金雲母 石英を多量に含む。 牛軛西麓産
甕 形 土 器	10-67	溝 2	口径 33.6 器高 (5.0)	○口縁部、体部上半のみ残存。 内面に丸味をもって外反する口縁部。 口縁端部は下方に抵張する。 ○磨滅のため調整不明。 ○口縁部外面、内面、刺突文。			色調 内 喷褐色 外 喷褐色 断 黑褐色
							胎土 粗 角閃石を多量に含む。 石英、金雲母も含む。 牛軛西麓産

() は残存値

器種	備考番号 実証番号	真様名 出土層位	法臓(cm)	特 ○口縁部 ○体部 ○内面 ○外側 ○横方向	備 考
甕形土器	10-68	溝 2	口径 38.7 器高 (6.4)	○口縁部、体部上半残存。 くの字に外反する口縁部。 口縁端部は下方に拡張する。 ○口縁部内外面ヨコナデ。 体部外面、ナデ。 体部内面、横方向へのヘラミガキ。 ○口縁部外側 刺突文。	色調 内 暗茶褐色 外 茶褐色 断 斑茶褐色 胎土 やや粗 角突石、石英を多量に含む。くさり繩は極少量含む。 牛跡西鉢底
甕形土器	11-69	溝 2	口径 30.8 器高 (10.0)	○口縁部、体部上半のみ残存。 丸く外反する口縁部。口縁端部は上・下に拡張する。 ○口縁部内外面、ヨコナデ。 口縁下端に指痕圧痕が残る。 体部外面、ナデ。	色調 内 暗茶褐色 外 茶褐色 断 壱褐色 胎土 やや粗 角突石を多量に石英を含む。くさり繩、 金糸所は極少量含む 体部外側に一部黒斑が認められる。 牛跡西鉢底
甕形土器	11-70	溝 2	口径 36.7 器高 (9.0)	○口縁部、体部上半のみ残存。 内側に丸座をもって外反する口縁部。 口縁端部は下方に拡張する。 ○口縁部外面に指痕圧痕が残る。 他は剥離と磨滅のため、調整不明。 ○口縁部下端、窓み目。	色調 内 暗茶褐色 外 茶褐色 断 壱褐色 胎土 粗 石英、角突石を多量に、くさり繩を極少量含む。口縁部裏側 体部とともに外側に炭化物質が付着する。 牛跡西鉢底
甕形土器	11-71	溝 2	口径 37.7 器高 (6.95)	○口縁部、体部上半残存。 内側に丸座をもって外反する口縁部。 口縁端部は下方に拡張する。 ○口縁部内面、体部内面、ヨコナデ。 他は磨滅のため調整不明。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 黒褐色 胎土 やや粗 角突石を多量に石英を含む。くさり繩は極少量含む。体部外側に泥痕が認められる 牛跡西鉢底
甕形土器	11-72	溝 2	口径 41.5 器高 (8.8)	○口縁部、体部上半残存。 くの字に外反する口縁部。 口縁端部は下方に拡張する。 ○体部内面、横方向へのヘラミガキ。 他は、磨滅のため調整不明。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 黑褐色 胎土 粗 角突石、石英を多量に、くさり繩を極少量含む。 牛跡西鉢底

() は残存値

器種	神宮番号 國立番号	遺構名 出土層位	法量(cm)	特 ○口形態 ○底形 ○文様	微 ○技法 ○文様	備考
甕形土器	11-73	溝 2	口径 31.8 底径 7.55	○体部上半欠損。 くの字に外反する口縁部。口縁端部は下方に張張する。 底部は平底。体部下半に焼成後の穿孔がある。 ○口縁部外面、ヨコナナ。体部外面、縦方向のヘラミガキ。外底面ナナ。 底部外面、斜方向のヘラミガキ。他は磨減のため調整不明。		色調 内 茶褐色 外 茶褐色 胎土 精 石英、角閃石を多量に含む。金雲母を含む。 生駒西御座
甕形土器	11-74	溝 2	口径 32.0 底径 9.9	○口縁部、体部上半、下半、底部残存。 くの字に外反する口縁部。口縁端部は下方に張張する。体部はわずかに誤る。 底部は平底。 ○全体に磨減のため調整不明。		色調 内 茶褐色 外 茶褐色 胎土 精 石英、角閃石を多量に、くさり輝、金雲母を少暈含む。 生駒西御座
甕形土器	11-75	溝 2	口径 33.6 底径 9.1	○口縁部、体部上半、底部残存。 くの字に外反する口縁部、口縁端部は下方に張張する。 底部は平底。 ○表面、磨減のため、調査不明。		色調 内 茶褐色 外 茶褐色 胎土 精 石英、角閃石を多量に、金雲母、くさり輝を含む。 牛駒西御座
甕形土器	11-76	溝 2	口径 13.15 底高 (2.8)	○上部のみ残存。 平坦な円板状の台から、やや内傾し斜めに広がる脚部。 ○外面ナナ、内面、粘土の接合面がはずれたため調整不明。		色調 内 茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色 胎土 真 石英を含む。
底 部	11-77	溝 2	底径 5.05 基高 (3.4)	○底部のみ残存。 平底。底部のはば中に円孔(1孔)。 ○磨減のため、調査不明。 底部内面に、指跡圧痕が覗る。		色調 内 茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色 胎土 精 石英、角閃石を多量に含む。 生駒西御座
底 部	11-78	溝 2	底径 4.15 基高 (4.2)	○底部のみ残存。 平底。底部のはば中に円孔(1孔)。 ○剝離と磨減のため調整不明。		色調 内 茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色 胎土 やや精 石英を多量に含む。
底 部	11-79	溝 2	底径 3.2 基高 (2.8)	○底部のみ残存。 底部中央が凹む平底。 ○底部外面、平行タタキ(5本/cm)、外底面ナナ。 他は、磨減のため調整不明。		色調 内 乳白色 外 乳白色 断 乳白色 胎土 精 石英を多量に含む。底部外面の約1/3と外底面に黒斑が認められる。

() は残存部

器種	種固着分 肉版著生	遺構名 出土位置	法尺(cm)	特 ○形態 ○技法 ○文様	備 考
底 部	11 - 80	溝 2	底径 4.05 器高 (3.0)	○底部のみ残存。 底部中央に平底。 ○底部外側、平行タタキ (3本/cm)。 外底白 ナデ。 内底白、剥離のため調整不明。	色調 内 灰色 外 淡茶褐色 胎土 粘 石英を多量に、くさり織は極少量含む。
口 部 形 上 器 A	12 - 81	土壤 1	口径 15.7 器高 (3.3)	○山腹部のみ残存。 腹部からならかに外反する山腹部。 山腹端部は下方に向て膨張する。 ○口頭部外側、ヨコナギ。 口部内面、剥離のため調整不明。 ○山腹部外側、縦状文 (原体14本)。 体部外向彫伏文 (原体7本以上) 1条。 山腹部内面円形線文。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 黑褐色 胎土 良 所用石を多量に含む 石英を含む 金雲母、くさり織を極少量含む。 生駒西館序
口 部 形 上 器 A	12 - 82	土壤 1	口径 18.45 器高 (9.9)	○山腹部のみ残存。 腹部からならかに外反する山腹部。 山腹端部は下方に向て膨張する。 ○剥離と磨滅のため、調整不明。 山腹端部内面に指頭圧痕が残る。 ○口頭部外側、縦状文 (原体は不明)。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 黑褐色 胎土 やや粗 角閃石、を多量に、 石英を含む。くさり 織は極少量含む。 生駒西館序
口 部 形 上 器 B	12 - 83	土壤 1	口径 20.95 器高 (13.6)	○口頭部のみ残存。 腹部からならかに外反した後、上方に大きく下方にわざかに膨張する。 口頭端部は内傾する。 ○全体に磨滅のため調整不明。 口頭端部内面に、指頭圧痕が残る。 ○口頭部外側、縦状文 (原体不明) 番形文。 体部外側、横描直線文 (原体7本以上)。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 黑褐色 胎土 やや粗 角閃石、石英を多量に、 くさり織を極少量含む。口頭部上端 と下端に、黒斑が認められる。 生駒西館序
口 部 形 上 器 B	12 - 84	土壤 1	口径 23.05 器高 (7.4)	○口頭部のみ残存。 腹部からならかに外反した後、上方に大きく下方にも膨張する。 口頭端部は内傾する。 ○全体にヨコナギ。 口頭端部内面に、指頭圧痕と爪のようなものであった痕跡が残る。 ○山腹部外側、縦状文 (原体11本)、番形文 (原体11本)、縦状文 (原体11本)。腹部外側 横描直線文 (原体11本) 2条。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 灰褐色 胎土 良 所用石を多量に含む 石英を含む。くさり 織は極少量含む。 生駒西館序
避 形 土 器 H	12 - 85 15 - 85	土壤 1	器高 (8.6)	○頭部のみ残存。 外反する歪面。 ○頭部外側、ヨコナギ。 頭部内面、剥離と磨滅のため、調整不明。 ○頭部外側、横描直線文 (原体8本)。 横描波状文 (原体10本)、凸沿文4条めぐる。	色調 内 黄褐色 外 黄褐色 断 黑褐色 胎土 やや粗 石英を多量にくさり 織を極少量含む。

() は残存状

器種	地図番号 又版番号	遺構名 出土層位	法量(cm)	特 〇形態 〇技法 〇文様	備 考
細 頸 壺 形 土 器	12 - 86	土 壤 1	口径 9.5 器高 (5.2)	〇口縁部のみ残存。合む。 筒状の頸部に、やや内凹する口部。口縁部は、内側に肥厚して上端に面をもつ。 〇口縁部外面、ヨコナデ。内面、刺離と磨滅のため調査不明。 〇口縁部外面、列点文。(原体12・16・22本)の上に円形浮文、壺状文(原体13本以上)。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 断端茶褐色 胎土 良 角閃石、石英を多量に、くさり繩を極少混含む。 生駒西龍座
短 頸 壺 形 土 器	12 - 87	土 壤 1	口径 10.3 器高 (5.65)	〇口縁部、体部上半残存。 口縁部は、近く外反し、口縁端部は、受口状を呈す。体部は、あまり張らない。口縁部に凹孔が2個ある。 〇体部内面、崩落日。他は、刺離と磨滅のため調査不明。	色調 内 淡黄茶色と 茶色 外 淡黄茶色 断 断端黄茶色 胎土 精良 くさり繩、石英の微砂粒を含む。
壺 形 土 器	12 - 88	土 壤 1	つまみ径 1.75 器高 (1.8)	〇つまみ部分のみ残存。 〇内外面、ナデ。外面上に爪のようなものが、あった痕跡がある。	色調 内 赤茶色 外 茶色 断 茶色 胎土 精良 石英の微砂粒を含む。
壺 形 土 器	12 - 89	土 壤 1	口径 14.3 器高 (3.3)	〇口縁部、体部上半残存。 くの字に外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。 〇刺離と磨滅のため調査不明。 〇口縁部外面、沈線が1条めぐる。	色調 内 暗茶褐色 外 端茶褐色 断 暗茶褐色 胎土 良 角閃石、石英、金雲母を含む。 生駒西龍座
壺 形 土 器	12 - 90	土 壤 1	口径 16.2 器高 (3.8)	〇口縁部、体部上半残存。 口縁部は、内面に丸みをもって、外反する。口縁端部は、下方に拡張する。 〇刺離と磨滅のため調査不明。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 茶褐色 胎土 精良 角閃石、石英を多量に、くさり繩は、極少混含む。 生駒西龍座
壺 形 土 器	12 - 91	土 壤 1	口径 14.9 器高 (8.3)	〇口縁部、体部上半残存。 内面に丸みをもって外反する口縁部。口縁部は、上・下に拡張する。 〇口縁部外面、ヨコナデ。体部外面ナデ。他は磨滅のため調査不明。 〇口縁部外面、刺突文。	色調 内 暗茶褐色 外 暗茶褐色 断 黒褐色 胎土 精良 石英、角閃石を多量に、くさり繩を極少混含む。 生駒西龍座
広 口 壺 形 土 器 A	12 - 92 15 - 92	土 壤 14	口径 14.5 器高 (9.8)	〇口部のみ残存。 頭部からなだらかに外反する口縁部。口縁部は、下方に拡張する。 〇刺離と磨滅のため調査不明。 〇口縁部外面、壺状文(原体8本)。	色調 内 茶褐色 外 茶褐色 断 茶褐色 胎土 やや粗 石英、角閃石を多量に含む。 生駒西龍座

() は残存値

器種	神田番号 国版番号	遺構名 出土層位	法量(cm)	特徴			備考
				○形態	○技法	○文様	
甕形土器	12-93	土壤 14	口径 36.5 器高 (5.8)	○口縁部、体部上半のみ残存。 内面に丸みをもつて外反する口縁部、口縁部は、下方に拡張する。 ○底盤のため調整不明 ○口縁部外側、刻突文。			色調 内 暗赤褐色 外 鮎青褐色 断 黒褐色 胎土 相 角突石、石英を多量に含む。 牛飼西越窯
底部	12-94	第 2 層	底径 5.4 器高 (3.5)	○底盤のみ残存。 底盤中央が、凹む。突出する平底。 ○外面、平行タタキ (3本/cm)、外底面、ナデ、一部未調整。他は、底盤のため調整不明。			色調 内 暗赤褐色 外 明茶褐色 断 明茶褐色 胎土 やや粗 石英、金雲母を含む
高台	12-95	ピット123	高台径 4.15 高台高 0.35 器高 (1.35)	○高台のみ残存。 ○内底面に胎土付が残る。			色調 内 緑灰色 外 緑灰色 断 淡白灰色 胎土 密

() は残存値

図 版



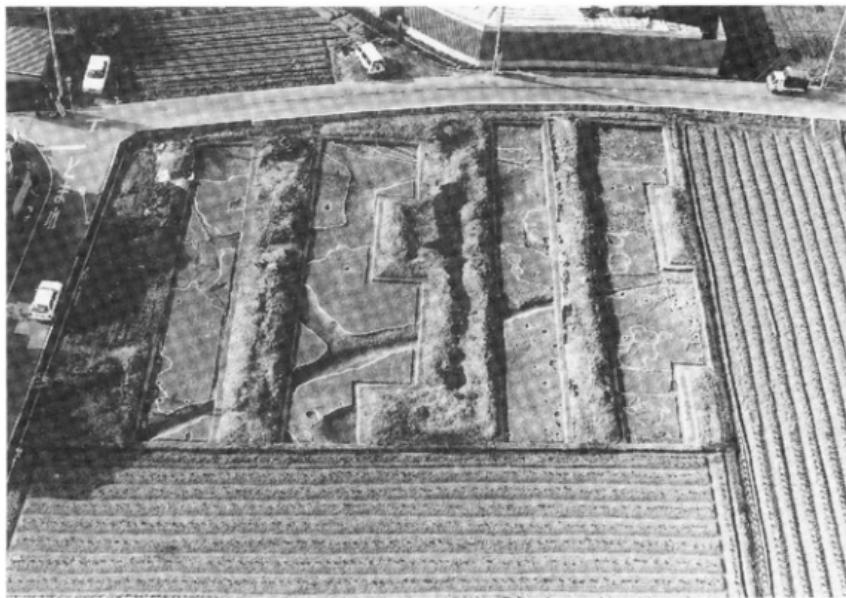
喜志遺跡周辺航空写真



調査地全景航空写真



調査地全景(調査前) 北西から



調査地全景(調査後) 東から



第1 トレンチ全景 西から



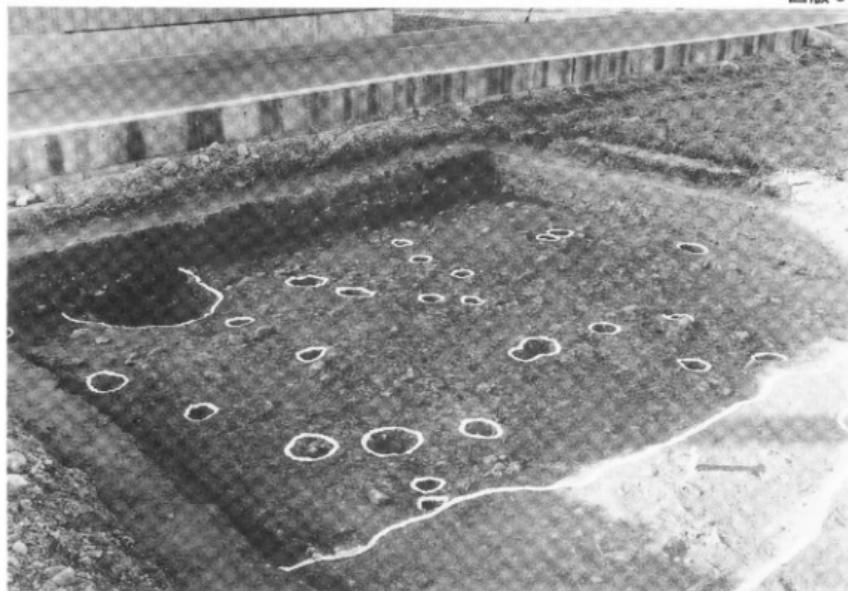
第2 トレンチ全景 西から



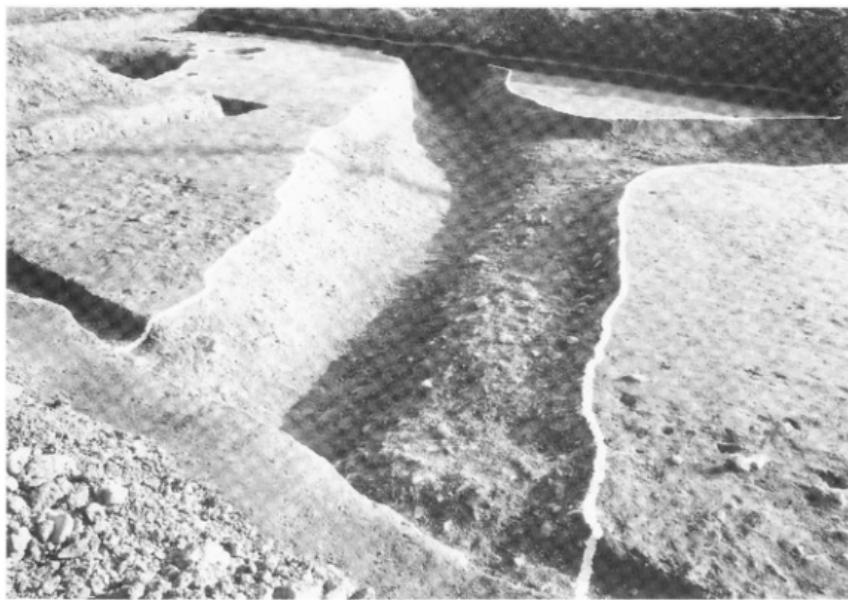
第3 トレンチ全景 西から



第4 トレンチ全景 西から



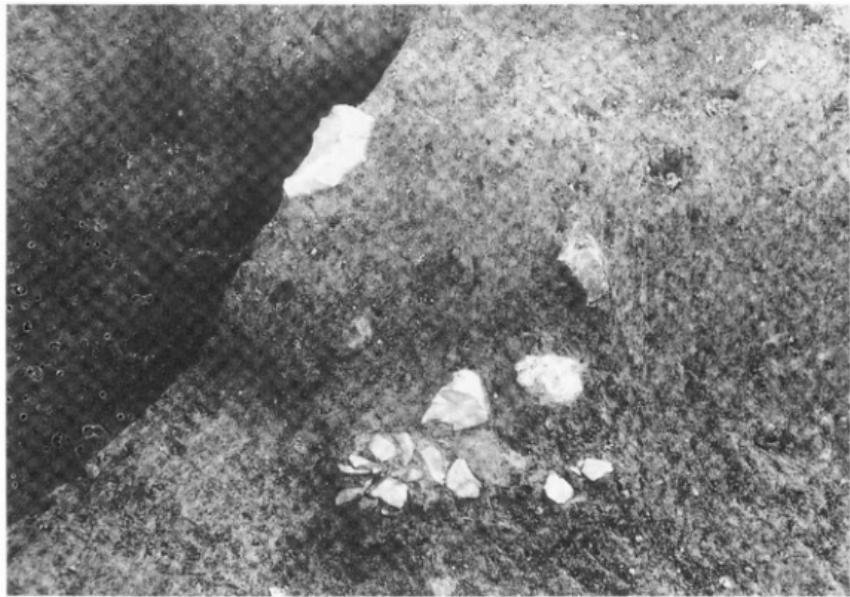
溝1(第1トレンチ) 南東から



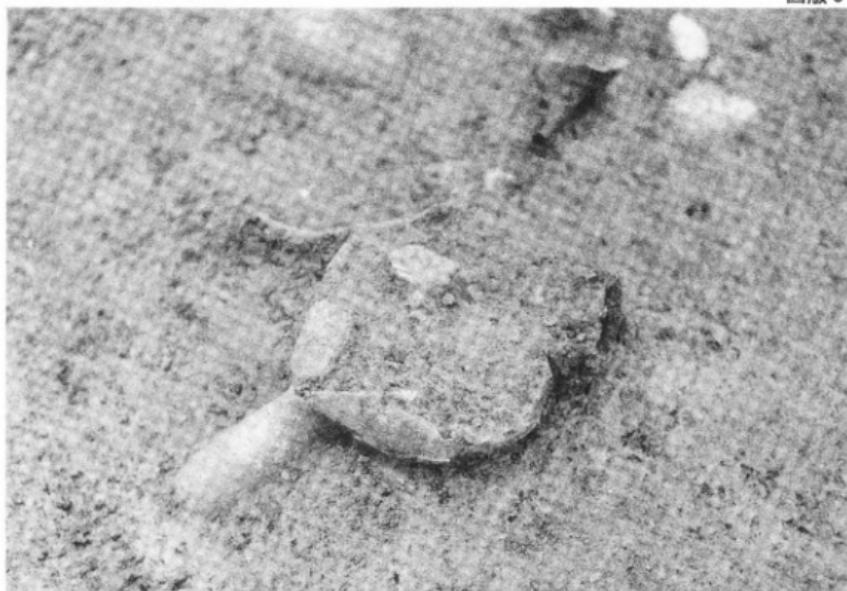
溝2(第3トレンチ) 北西から



溝2(第2トレンチ) 弥生土器出土状況 北から



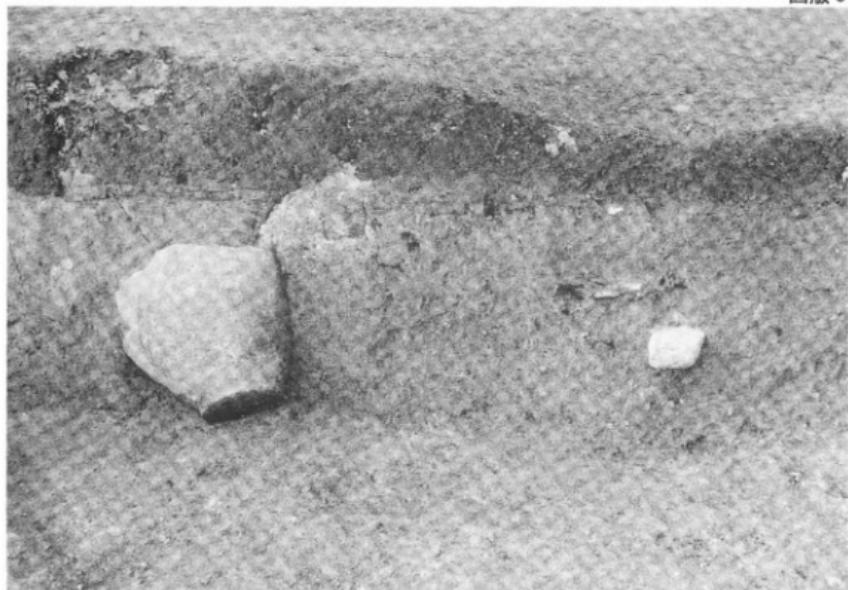
溝2(第3トレンチ) サヌカイト出土状況 南東から



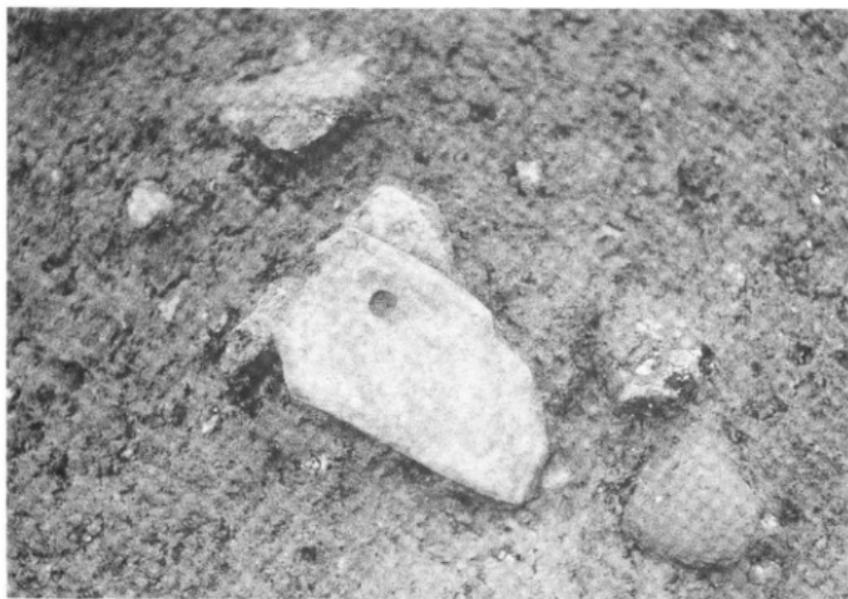
溝2(第4トレンチ) 弥生土器出土状況 北から



溝2(第4トレンチ) 弥生土器出土状況 南から



溝 2(第 4 トレンチ) 弥生土器出土状況 南から



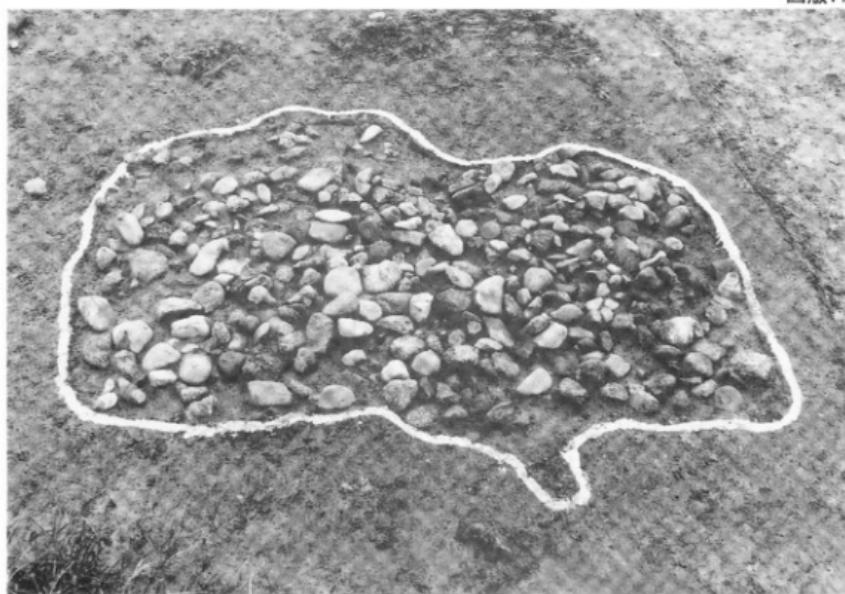
溝 2(第 4 トレンチ) 石庖丁出土状況 南から



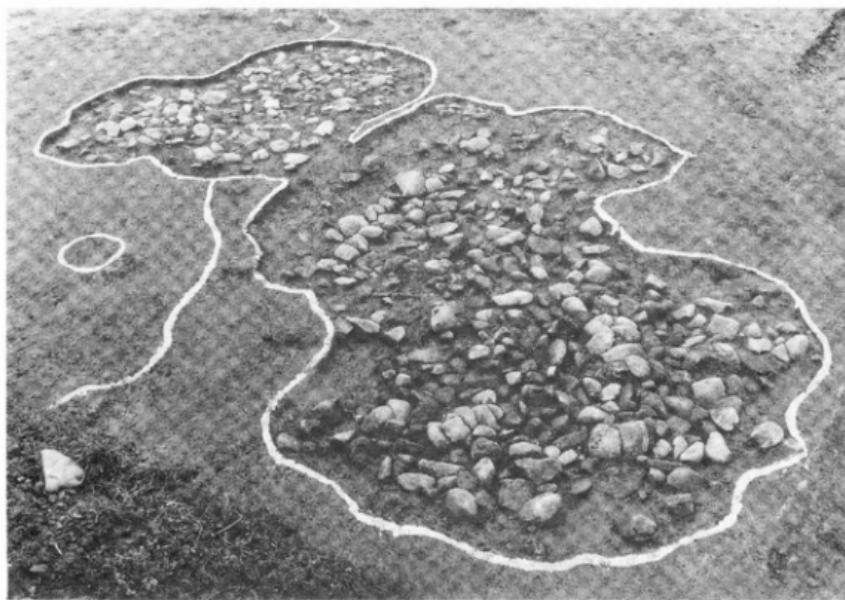
土壤1(第1トレンチ) 遺物出土状況 北から



土壤4(第1トレンチ) 全景 南から



土壤5(第1トレンチ)全景 南から



土壤6(第1トレンチ)全景 南東から



土壤9(第1トレンチ) 全景 北から



土壤10(第2トレンチ) 全景 南から



7



14



16



20



23



24

溝2出土土器



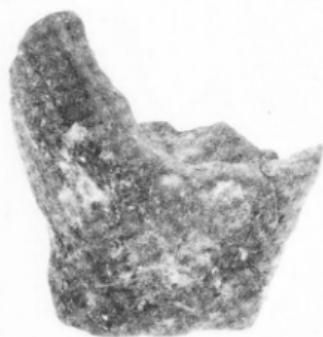
33



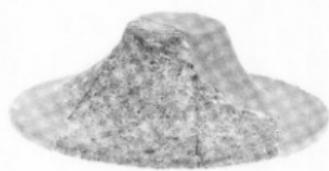
35



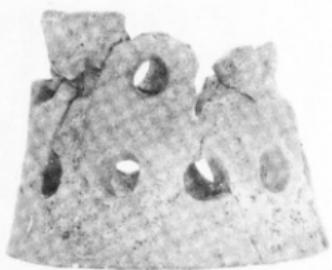
47



39



53



49



50

溝 2 出土土器



54



55



85



92



5



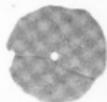
3



1



6

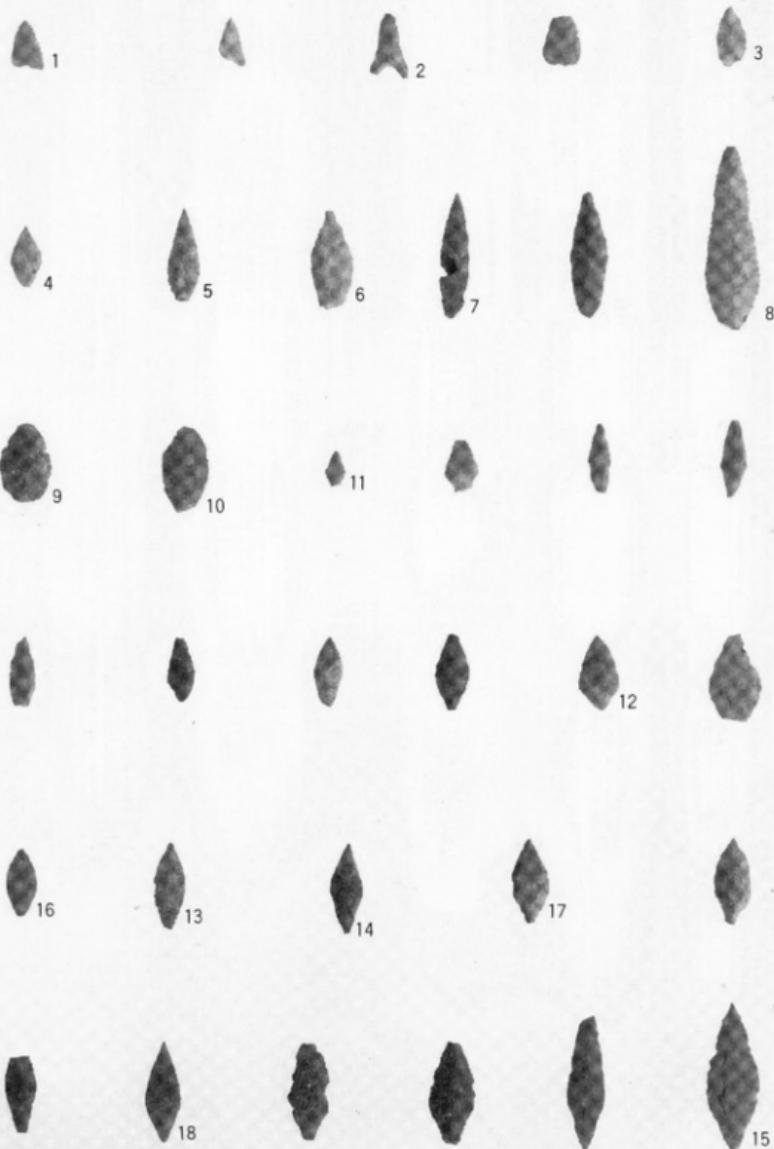


4



2

土壤1・14、ピット51、出土土器・土製品





19



20



21



22



23



24



25



26



27

石鏃・未製品



28



29



30



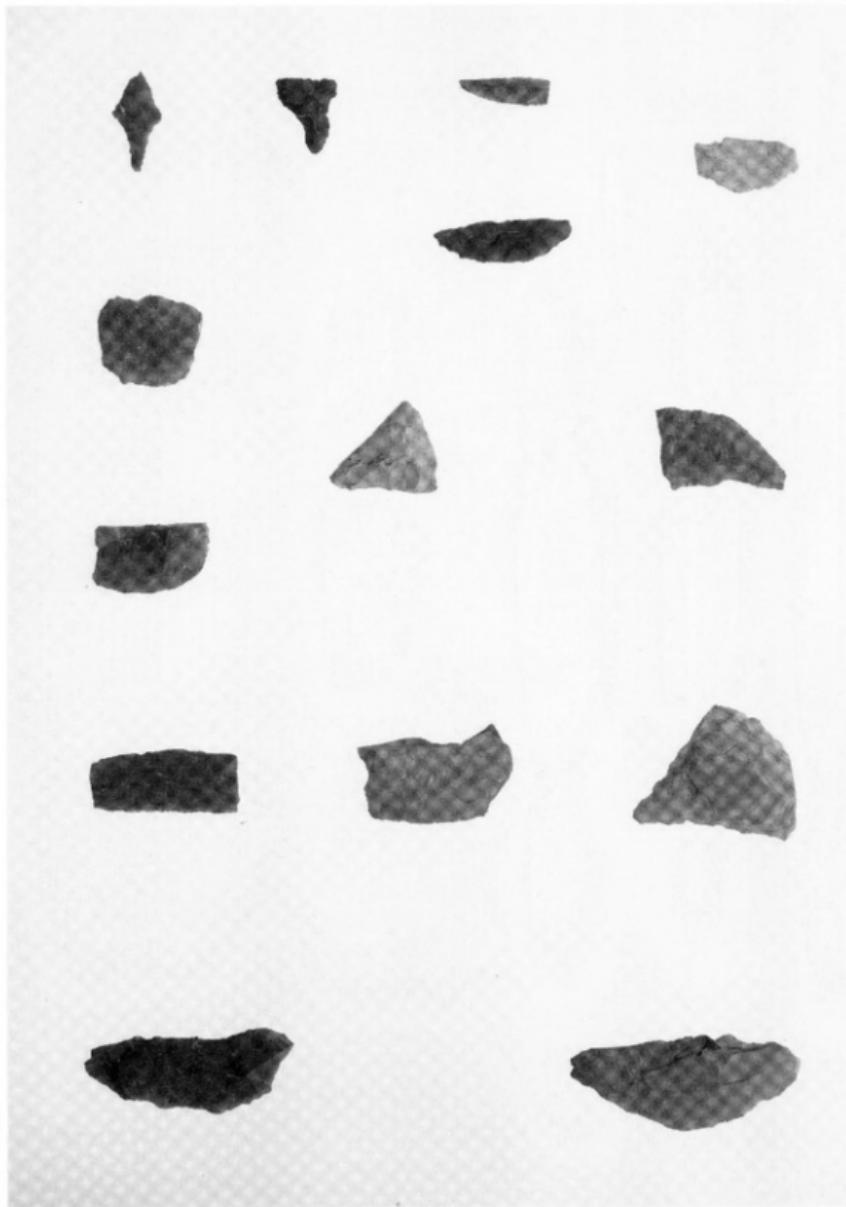
31



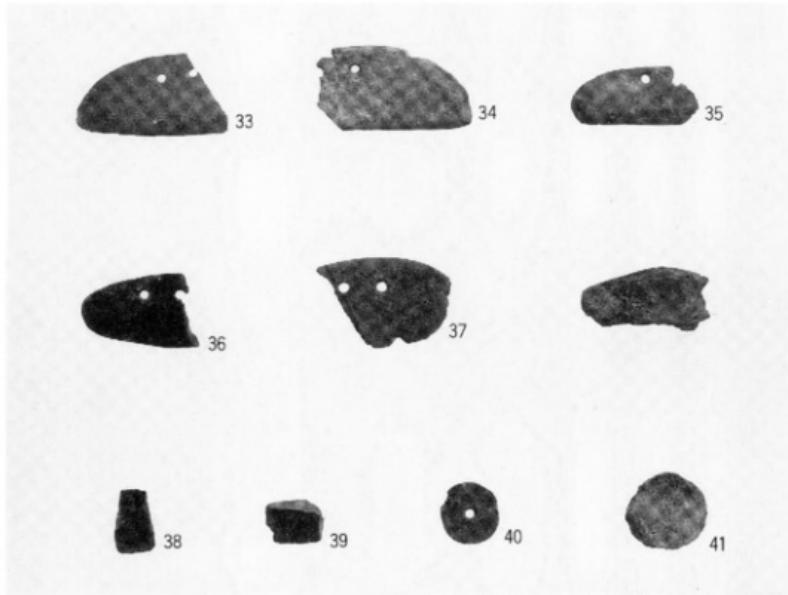
32



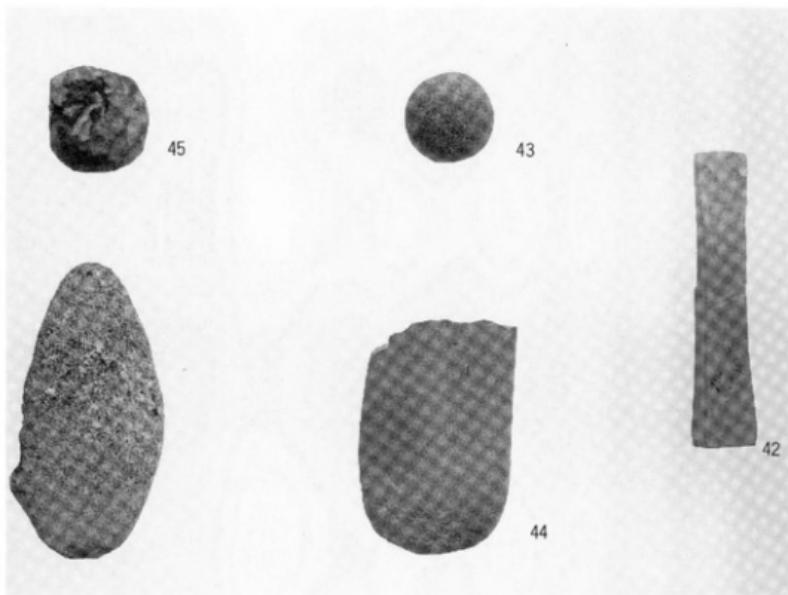
石劍・石槍・未製品



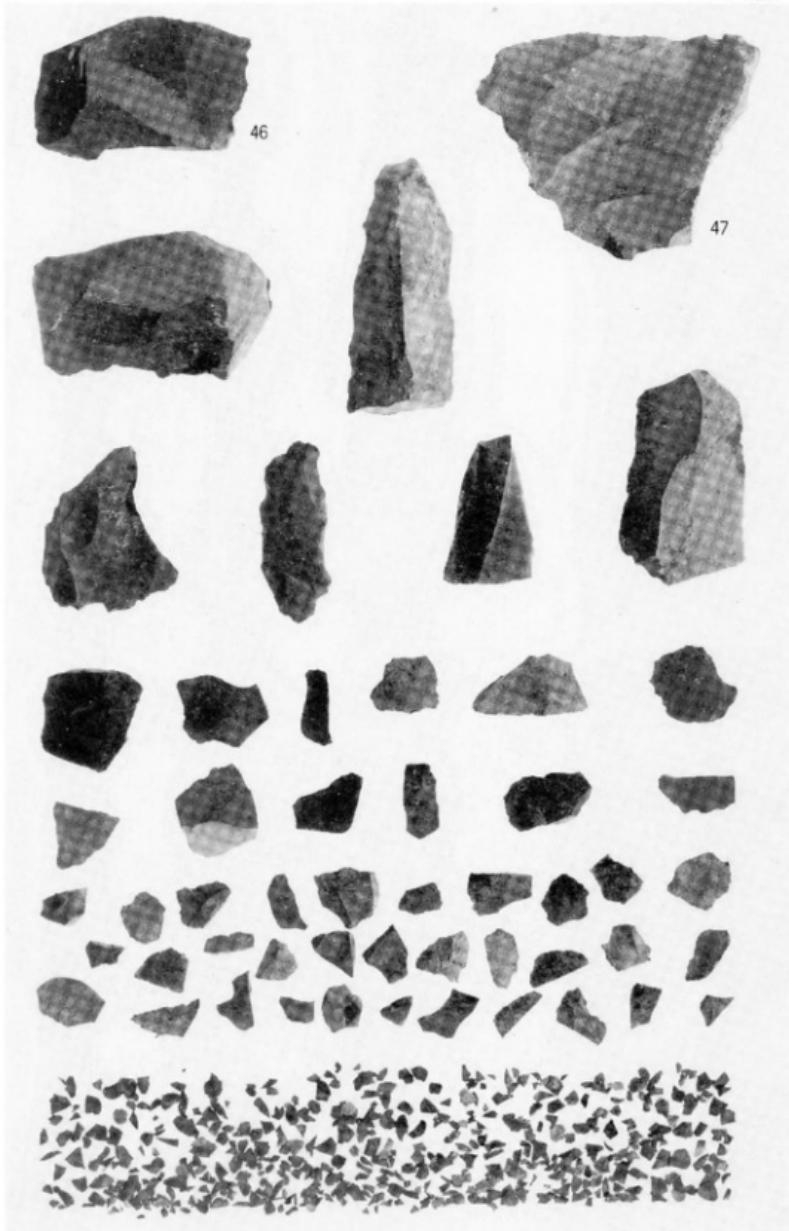
石錐・石小刃・削器



石庖丁・小型扁平片刃石斧・削器・紡錘車・未製品



砥石・叩き石



サヌカイト石核・削片

富田林市埋蔵文化財調査報告16

発行年月日 1988年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 橋本印刷株式会社

1988.300

遺構平面図



東高野街道





